

## 教職関連科目

職業指導 [Vocational Guidance] … 全コース/坂野/3年・後期	1891
介護等体験 [Caring and Assistance Practicum] … 全コース/坂田/2年・通年集中	1893
教師論 [Lecture on the Teaching Profession] … 全コース/中川/2年・前期	1895
教育学概論 [Education] … 全コース/弘田/2年・後期	1897
教育心理学 [Educational Psychology] … 全コース/上岡 他/2年・後期	1899
教育の制度と経営 [Educational System and School Administration] … 全コース/大林/2年・後期	1901
教育課程論 [Curriculum Development] … 全コース/坂田 他/2年・後期	1903
数学科教育法Ⅰ [Methodology of Teaching Mathematics I] … 全コース/濱井 他/2年・前期	1905
数学科教育法Ⅱ [Methodology of Teaching Mathematics II] … 全コース/濱井 他/2年・前期	1907
数学科教育法Ⅲ [Methodology of Teaching Mathematics III] … 全コース/濱井 他/2年・後期	1909
数学科教育法Ⅳ [Methodology of Teaching Mathematics IV] … 全コース/濱井 他/2年・後期	1911
理科教育法Ⅰ [Methodology of Teaching Science I] … 全コース/渡部 他/2年・前期	1913
理科教育法Ⅱ [Methodology of Teaching Science II] … 全コース/渡部 他/2年・前期	1915
理科教育法Ⅲ [Methodology of Teaching Science III] … 全コース/渡部 他/2年・後期	1917
理科教育法Ⅳ [Methodology of Teaching Science IV] … 全コース/渡部 他/2年・後期	1919
情報科教育法Ⅰ [Informatics Education I] … 全コース/中山/3年・前期	1921
情報科教育法Ⅱ [Informatics Education II] … 全コース/中山/3年・後期	1923
工業科教育法Ⅰ [Methodology of Teaching Industrial Subjects I] … 全コース/理工学部非常勤講師/2年・前期	1925
工業科教育法Ⅱ [Methodology of Teaching Industrial Subjects II] … 全コース/宮本/2年・前期	1927
道德教育 [Moral Education] … 全コース/楠/3年・前期	1929
特別活動論 [Studies on Extra-Curricular Activities] … 全コース/葛上/3年・前期	1931
教育方法学 [Instructional Psychology] … 全コース/坂田 他/3年・前期	1933
生徒指導論(進路指導を含む) [Student Counseling] … 全コース/中川 他/3年・後期	1935
教育相談 [Educational Counseling] … 全コース/福森/3年・後期	1937
教育実習事前事後指導 [Guidance Before and After Teaching Practicum] … 全コース/坂田/4年・通年	1939
教職実践演習(中・高) [Practical Teaching] … 全コース/坂田 他/4年・通年	1941

開講学期	3年・後期	時間割番号	6S10010
科目分野	教職取得に関する専門科目 [Special Education as to Teaching]		
選必区分	要件外		
科目名	職業指導 [Vocational Guidance]		
ナンバリング			
担当教員	坂野 信義 [Nobuyoshi Sakano]		
単位数	4	対象学生・年次	全コース
<b>授業の目的</b>			
生涯発達・Career Developingとしての人間観・職業観を確立し、個人及び工業高校教師として必要な職業指導・カウンセリング能力を習得する。			
<b>授業の概要</b>			
生涯発達・Career Developingとしての人間観・職業観を確立すべく、学際的見地から職業指導・キャリア・カウンセリングの目的・課題・理論・展開方法・技法を論述する。併せてキャリア確立上必須の種々の能力開発を実践指導し、習得を図る。			
<b>キーワード</b>			
<b>到達目標</b>			
1. 職業指導・キャリア・カウンセリングの目的・課題・理論・展開方法・技法などを理解し、種々の能力開発の理論と実践スキルを習得し、高校教師として基礎的指導能力に習熟する。			
<b>授業の計画</b>			
1. 未来論 21 世紀のパラダイム・人が働く意義・人間実存の荘厳性の認識深化			
2. 職業指導の歴史的発展・日米の比較を通しその目的・定義・諸理論の理解			
3. 実践的なキャリアカウンセリングの理論と方法の理解			
4. 高校生のためのキャリアガイダンスの理解			
5. 個人の具有性のアセスメント:人格、性格・個性の理解			
6. 職業興味:欲求と行動、適応と不適応の理解			
7. アセスメントの実際:性格検査法の理解			
8. ビデオ教材学習:「今を生きる」・・・理想の教師・高校生との交流とは			
9. 就職に必要な所要性能のアセスメント:就職・産業人としての心構えの理解			
10. 理想の組織とは:官僚制組織の長所・短所、システム4 の理解			
11. マネジメント・スキルの理解:科学的管理法・HR 理論・ハーズバーグ理論			
12. 管理能力とは:生徒や部下をやる気にさせるリーダーシップ理論の理解			
13. カウンセリング理論:定義・カウンセリングマインドの理解			
14. カウンセリング技法の理解・演習			
15. コミュニケーションスキルの理解:「職業観について」の小論文テスト			
16. 能力開発:生涯発達心理学に基づき、ライフキャリアステージ意義の理解			
17. エリクソン・ニーチェ・佐藤一斎・OECD などの発達課題・ライフステージ理解			
18. 井上富雄の人生計画表を参考に、自分の「人生 60 年計画表」を考案			
19. ワークショップ 1:「人生 60 年計画表」を完成・提出			
20. 能力開発:学習心理学・認知心理学上特に学習条件や記憶モデルの理解			
21. IC 法・記憶術・速読術演習			
22. 創造力育成のための発想法の諸理論・技法の理解:NM 法の理論・方法			
23. ワークショップ 2:NM 法にてアイデア創出のためのソフト作成・提出			
24. 問題解決法としての KJ 法の目的・意義・技法の理解			
25. ワークショップ 1):具体的問題解決のためにテーマの決定・ラベル作り			
26. ワークショップ 2):名札作り・構造配置位置決定			
27. ワークショップ 3):貼り付け・島作り第一段階～第三段階、完成・ワークショップ 4			
28. 提出した KJ 法のプレゼンテーション会			

29.	ディベートの重要性の理解とノウハウを理解
30.	ワークショップ 5:ディベートコンテストを実施
<b>教科書</b>	
講師によるプリント教材資料配付	
<b>参考書</b>	
参考書・必読書については、講義中に適宜講師が紹介。	
<b>成績評価方法・基準</b>	
小論文, ワークショップ提出物 3 点, 出席, 講義中の態度など	
<b>再試験の有無</b>	
<b>受講者へのメッセージ</b>	
自己啓発・自己変革を自覚して履修すべし	
<b>JABEE合格</b>	
<b>学習教育目標との関連</b>	
<b>教免科目</b>	
<b>授業の使用言語</b>	
<b>WEB ページ</b>	
<b>連絡先</b> (E メールアドレス, オフィスアワー)	(学生用連絡先) Sakano02@sage.ocn.ne.jp newportu@galaxy.ocn.ne.jp
<b>備考</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「面白くてためになり, そして思い出に残る」講義が目標.</li> <li>2. 授業を受ける際には, 2 時間の授業時間毎に 2 時間の予習と 2 時間の復習をしたうえで授業を受けることが, 授業の理解と単位取得のために必要である.</li> </ol>

開講学期	2年・通年集中	時間割番号	6S10020
科目分野	教職取得に関する専門科目 [Special Education as to Teaching]		
選必区分	要件外		
科目名	介護等体験 [Caring and Assistance Practicum]		
ナンバリング			
担当教員	坂田 大輔 [Daisuke Sakata]		
単位数	1	対象学生・年次	全コース
<b>授業の目的</b>			
<p>社会福祉施設での実習を通して、利用者の現状や、利用者のことを考えた環境づくりや支援について理解する。</p> <p>特別支援学校での実習を通して、知的発達の違いがある児童生徒とのかかわったり、行事運営に参加したりしながら、児童生徒の現状や、個に応じた支援のあり方について理解する。</p>			
<b>授業の概要</b>			
<p>徳島県内の社会福祉施設に5日間、鳴門教育大学附属特別学校に2日間、合計7日間の実習を行う。社会福祉施設 実習は、県内の老人福祉施設、児童福祉施設、障害者施設と連携し、各社会福祉施設の計画に基づいて行う。附属特別学校実習は、鳴門教育大学附属特別支援学校と連携し、同学校の計画に基づいて、配属学級において知的発達の違いがある児童生徒とのかかわったり、学校行事「学校祭」の前日準備、当日運営にかかわったりしながら行う。このような実習を通して、上記の目標の達成をめざすが、使命感や責任感、教育的愛情、コミュニケーション力をもつことの大切さを再確認し、今後さらに教員に求められている資質能力を修得していこうとする気持ちを高めてほしい。</p>			
<b>キーワード</b>			
<b>到達目標</b>			
<p>社会福祉施設での実習を通して理解した利用者の現状や、利用者のことを考えた環境づくりや支援について説明する。</p> <p>特別支援学校での実習を通して、知的発達の違いがある児童生徒とのかかわったり、行事運営に参加したりしながら理解した児童生徒の現状や、個に応じた支援のあり方について説明する。</p>			
<b>授業の計画</b>			
<p>第1回:社会福祉施設における介護等体験について～社会福祉施設の現状と介護・支援～</p> <p>第2回:社会福祉施設実習 ※第2回～第9回は、各社会福祉施設の計画による。</p> <p>第3回:社会福祉施設実習</p> <p>第4回:社会福祉施設実習</p> <p>第5回:社会福祉施設実習</p> <p>第6回:社会福祉施設実習</p> <p>第7回:社会福祉施設実習</p> <p>第8回:社会福祉施設実習</p> <p>第9回:社会福祉施設実習</p> <p>第10回:社会福祉施設実習</p> <p>第11回:社会福祉施設実習</p> <p>第12回:特別支援学校における介護等体験について～特別支援教育・学校祭について～</p> <p>第13回:特別支援学校実習 ※第13回～16回は、鳴門教育大学附属特別支援学校の計画による。</p> <p>第14回:特別支援学校実習</p> <p>第15回:特別支援学校実習</p> <p>第16回:特別支援学校実習</p>			
<b>教科書</b>			
<b>参考書</b>			
<b>成績評価方法・基準</b>			
『介護等体験実習ノート』の活動日誌への記述及び指導担当者の評価、「介護等体験」受講報告書の記述を総合的に判断して評価する。			

再試験の有無	
受講者へのメッセージ	
JABEE合格	
学習教育目標との関連	
教免科目	
授業の使用言語	
<b>WEB ページ</b>	
<b>連絡先</b> (E メールアドレス, オフィスアワー)	(学生用連絡先) 1 号館中棟 2 階 2M01 号室(教育方法論研究室) TEL 088-656-7203 (メールアドレス) sakata.daisuke@tokushima-u.ac.jp
<b>備考</b>	この授業は、中学校教諭一種免許状取得のための「教科又は教職に関する科目」に該当し、必修科目となっている。 可能な限り、2 年次に履修すること。 なお、受講前年度に実施される「教員免許状取得希望者に対する説明会」及び「『介護等体験』受講説明会」、受講年度に実施される「『介護等体験』事前指導」のすべてに出席しなければ、「介護等体験」を受講できない。

開講学期	2年・前期	時間割番号	6S10030
科目分野	教職取得に関する専門科目 [Special Education as to Teaching]		
選必区分	要件外		
科目名	教師論 [Lecture on the Teaching Profession]		
ナンバリング			
担当教員	中川 隆彦 [Takahiko Nakagawa]		
単位数	2	対象学生・年次	全コース
<b>授業の目的</b>			
「子どもに慕われ、保護者に敬愛され、同僚に愛され、校長に信じられる」教師を育成し、新たな時代にふさわしい教師として学校教育が担えるよう、確固たる教師観と実践につながる資質・能力を育成する。			
<b>授業の概要</b>			
学校現場の実態や課題、問題点を新聞や参考資料を基に把握した上で、教職の意義を理解し、教職のあるべき姿を自らが描いていく。教育現場を参観したり、先輩教師の話の聞いたりすることにより、実感をともなった授業構成にしていく。			
<b>キーワード</b>			
教育現場の実情、教職の意義、教員の職務内容、教員の服務、教師観、資質・能力、理想とする教師像			
<b>到達目標</b>			
①学校現場の実情を理解することができる。 ②教職の意義、教員の職務内容等を学ぶことができる。 ③理想とする教師像を描くことができる。			
<b>授業の計画</b>			
第1回:学校現場の実情と課題 第2回:教職の意義と使命 第3回:教員の服務と職務内容 第4回:学校現場の参観 第5回:学校現場の講話 第6回:小学校教員から学ぶ 第7回:中学校教員から学ぶ 第8回:高等学校教員から学ぶ 第9回:子どもの心をとらえた教育実践から学ぶ(中学校教員) 第10回:子どもの心をとらえた教育実践から学ぶ(高等学校教員) 第11回:子どもの心をとらえた教育実践から学ぶ(特別支援学校教員) 第12回:「日本で一番大切にしたい会社」から学ぶ教師の在り方 第13回:自分の理想とする教師像 第14回:教職への展望 第15回:レポート 第16回:まとめ			
<b>教科書</b>			
必要に応じて授業時にレジュメ・資料を配付する。			
<b>参考書</b>			
中学校学習指導要領／文部科学省 [著]:東山書房, 2008, ISBN:9784827814613 高等学校学習指導要領／文部科学省 [著]:東山書房, 2009, ISBN:9784827814781 日本でいちばん大切にしたい会社／坂本 光司 著:あさ出版, 2008, ISBN:9784860632489 適宜, 参考図書資料を紹介する。			
<b>教科書・参考書に関する補足情報</b>			
必要に応じて授業時にレジュメ・資料を配付する。			

<b>成績評価方法・基準</b>	
各授業の課題・参加態度, 最終レポート等により総合的に評価する。	
<b>再試験の有無</b>	
なし。	
<b>受講者へのメッセージ</b>	
各人の意見を述べ合う場を授業中に設ける。課題意識をもって授業に参加すること。	
<b>JABEE合格</b>	
新聞記事や参考資料, 教育現場で参観したこと, 現職教員の話をもとに, 毎回, 自分なりに, 教職の意味, 教員のあるべき姿について整理してみること。 教育に関するニュースに日々目を向けていくこと。	
<b>学習教育目標との関連</b>	
<b>教免科目</b>	
<b>授業の使用言語</b>	
<b>WEB ページ</b>	
<b>連絡先</b> (E メールアドレス, オフィスアワー)	(学生用連絡先) 総合科学部 1 号館中棟 2 階 2M02 室 088-656-7190 (メールアドレス) nakagawa.takahiko@tokushima-u.ac.jp (オフィスアワー) 毎週水曜日 PM.1:00-PM.4:00 総合科学部 1 号館2階 2M02 号室
<b>備考</b>	この授業は, 中学校教諭, 高等学校教諭(工業を除く)の各種免許状取得のための「教職に関する科目」に該当し, 必修科目となっている。

開講学期	2年・後期	時間割番号	6S10040
科目分野	教職取得に関する専門科目 [Special Education as to Teaching]		
選必区分	要件外		
科目名	教育学概論 [Education]		
ナンバリング			
担当教員	弘田 陽介 [Yohsuke Hirota]		
単位数	2	対象学生・年次	全コース
<b>授業の目的</b>			
教育の理念の成り立ちを近代思想史の文脈において把握することをテーマとする。			
<b>授業の概要</b>			
教育の理念および思想史を、現在の私たちの教育問題と接続して考えていく。そのために、近代的な学問・科学の成立といった事象を、今日的な教育制度の成立と関連させて把握する。授業は、主に講義・テキスト読解・映像分析をメインとするが、受講者の小発表を織り交ぜることで、活発に自由な議論が展開できるように工夫する。			
<b>キーワード</b>			
教職, 教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想			
<b>到達目標</b>			
歴史的知見を単なる知識にとどめず、思想的な訓練を深めた現在の教育言説や制度改革にまで連なる一つの思想の流れの中で解釈できることを到達目標とする。また小発表を通して、文献や資料に沿って、自らの解釈を提示するというスキルを身につけることも到達目標としたい。			
<b>授業の計画</b>			
第1回: 導入 授業の概略と進め方について			
第2回: 現在の教育言説			
第3回: 子供の成長 誕生から幼児期まで			
第4回: 子供の成長 少年期から思春期まで			
第5回: 子供の成長 青年期から			
第6回: 生涯教育の思想			
第7回: 母と子の教育学			
第8回: 教育を形作った思想 ルソーとペスタロッチ			
第9回: 教育を形作った思想 カント			
第10回: 学問としての近代教育 ヘルバルト			
第11回: 教育を形作った思想 フーコー			
第12回: 教育の理念における経験の思想 森有正			
第13回: 教育の理念における身体思想 古典・芸道の理念			
第14回: レポートの構成・書き方			
第15回: まとめ			
第16回: 総括授業			
<b>教科書</b>			
プリントを適宜用意する			
<b>参考書</b>			
近代の擬態/擬態の近代 : カントというテキスト・身体・人間 / 弘田陽介 著, : 東京大学出版会, 2007, ISBN:9784130160278			
<b>成績評価方法・基準</b>			
授業への積極的な参加(20%), 小発表(30%), 学期末のレポート(50%)			
<b>再試験の有無</b>			
<b>受講者へのメッセージ</b>			



<b>JABEE合格</b>	
<b>学習教育目標との関連</b>	
<b>教免科目</b> この授業は、中学校教諭、高等学校教諭(工業を除く)、養護教諭の各種免許状取得のための「教職に関する科目」に該当し、必修科目となっている。	
<b>授業の使用言語</b>	
<b>WEB ページ</b>	
<b>連絡先</b> (E メールアドレス、 オフィスアワー)	(メールアドレス) byu00616@nifty.com
<b>備考</b>	この授業は、中学校教諭、高等学校教諭(工業を除く)、養護教諭の各種免許状取得のための「教職に関する科目」に該当し、必修科目となっている。

開講学期	2年・後期		時間割番号	6S10050
科目分野	教職取得に関する専門科目 [Special Education as to Teaching]			
選必区分	要件外			
科目名	教育心理学 [Educational Psychology]			
ナンバリング				
担当教員	上岡 義典, 山本 真由美, 境 泉洋 [UEOKA YOSHINORI, Mayumi Yamamoto, Motohiro Sakai]			
単位数	2	対象学生・年次	全コース	
<b>授業の目的</b>				
将来、教育現場で教員として活躍することを念頭に置き、①教育現場で必要な基礎知識を身につけること、②現代の教育現場で生じている問題を知ること、③それへの対応方法を考えることを到達目標とする。				
<b>授業の概要</b>				
教育心理学は、「発達」、「学習」、「適応とパーソナリティ」、「(学級)集団」、「教育評価(知能を含む)」、「発達障害と特別支援教育」、「(学校)カウンセリング」など、多岐にわたる内容から構成される学問である。これらの基礎知識を身につけた後、現代の教育現場で生じている問題を検討する。授業実施についてアクティブラーニング手法を取り入れる。				
<b>キーワード</b>				
発達、学習、適応、評価、特別支援教育				
<b>到達目標</b>				
<b>授業の計画</b>				
第1回:教育心理学の概要(意義, 歴史など) (担当:上岡)				
第2回:研究法 (担当:非常勤[未定])				
第3回:発達(発達段階, 発達要因, 発達理論) (担当:山本)				
第4回:身体と運動機能の発達(障害をもつ幼児, 児童の発達・学習を含む) (担当:山本)				
第5回:認知・記憶の発達(障害をもつ幼児, 児童の発達・学習を含む) (担当:山本)				
第6回:情動の発達(障害をもつ幼児, 児童の発達・学習を含む) (担当:山本)				
第7回:社会性の発達(障害をもつ幼児, 児童の発達・学習を含む) (担当:山本)				
第8回:学習の理論と過程(担当:非常勤[未定])				
第9回:動機づけ(担当:非常勤[未定])				
第10回:学級集団(構造, 理解, 指導) (担当:上岡)				
第11回:パーソナリティと適応(障害をもつ幼児, 児童の発達・学習を含む) (担当:上岡)				
第12回:測定(知能検査, 学力検査など)(障害をもつ幼児, 児童の発達・学習を含む)(担当:上岡)				
第13回:評価(測定と評価) (担当:非常勤[未定])				
第14回:発達障害と特別支援教育(担当:上岡)				
第15回:統計(基礎統計量, 代表値, 相関など) (担当:非常勤[未定])				
第16回:定期試験				
<b>教科書</b>				
LMS で提示				
<b>参考書</b>				
心理学の世界 基礎編6 教育心理学/新井邦二郎他:培風館, 2009, ISBN:9784563058722				
たのしく学べる最新教育心理学—教職にかかわるすべての人に/桜井 茂男編:図書文化, 2004, ISBN:9784810034196				
<b>成績評価方法・基準</b>				
LMS で提示した資料を理解し、それに関わる予習用の小テストへの解答(30%),教育現場の問題に対するグループレポート(30%),期末テスト(40%)を勘案して行う。				
<b>再試験の有無</b>				
<b>受講者へのメッセージ</b>				

<b>JABEE合格</b>	
<b>学習教育目標との関連</b>	
<b>教免科目</b>	
<b>授業の使用言語</b>	
<b>WEB ページ</b>	
<b>連絡先</b> (E メールアドレス, オフィスアワー)	<p>(学生用連絡先)</p> <p>山本 真由美:3S06, TEL:088-656-7192</p> <p>境 泉洋:総合科学部3号館3階3S03研究室, Tel:088-656-7191</p> <p>上岡 義典:総合科学部3号館 南棟3階 3S01 研究室 TEL:088-656-7204</p> <p>(メールアドレス)</p> <p>上岡 義典:ueoka@tokushima-u.ac.jp</p> <p>境 泉洋:sakai.motohiro@tokushima-u.ac.jp</p> <p>山本 真由美:yamamotom@tokushima-u.ac.jp</p> <p>(オフィスアワー)</p> <p>山本 真由美:在室時:いつでも可。</p> <p>上岡 義典:火曜日:12:00~13:00(出張等により、不在の場合もあります)</p>
<b>備考</b>	この授業は、中学校教諭, 高等学校教諭(工業を除く), 養護教諭の各種免許状取得のための「教職に関する科目」に該当し、必修科目になっている。

開講学期	2年・後期	時間割番号	6S10060
科目分野	教職取得に関する専門科目 [Special Education as to Teaching]		
選必区分	要件外		
科目名	教育の制度と経営 [Educational System and School Administration]		
ナンバリング			
担当教員	大林 正史 [Masafumi Ohbayashi]		
単位数	2	対象学生・年次	全コース
<b>授業の目的</b>			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教育法規と行政の基本について理解する。</li> <li>2. 今日の教育改革の動向について理解する。</li> <li>3. 教育制度と学校経営について、資料をもとに批判的に考察する力を身につける。</li> </ol>			
<b>授業の概要</b>			
<p>公的な仕事である学校教育を専門的に担う教職員は、教育関係法令および教育行政の構造を理解した上で、その職務を遂行することが不可欠です。ただし、教職員は、時代によって変化していく教育制度を受動的に理解し遵守するだけでなく、これを批判的に考察することを通して、主体的に国民の「教育を受ける権利」を保障していくことが求められます。</p> <p>そのため、本講義では、現在の学校教育に関わる主要な法制度を解説するとともに、その歴史的経緯を解説します。また、学生は、教育制度と学校経営について批判的に考察する力を身につけるために、各回の講義に関連するテーマについて資料を読み込んで自分の意見を記述することや、小グループでの意見交換を行います。</p>			
<b>キーワード</b>			
教職, 教育に関する社会的、制度的又は経営的事項			
<b>到達目標</b>			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教育法規と行政の基本について説明できる。</li> <li>2. 今日の教育改革の動向について説明できる。</li> <li>3. 教育制度と学校経営について、資料をもとに批判的に考察する力を身につける。</li> </ol>			
<b>授業の計画</b>			
<p>第1回 教育法制の構造、日本国憲法、教育基本法 —講義・自分の意見の記述—</p> <p>第2回 教育法制の構造、日本国憲法、教育基本法 —小グループでの意見交換—</p> <p>第3回 学校の種類と体系、就学 —講義・自分の意見の記述—</p> <p>第4回 学校の種類と体系、就学 —小グループでの意見交換—</p> <p>第5回 教育委員会制度 —講義・自分の意見の記述—</p> <p>第6回 教育委員会制度 —小グループでの意見交換—</p> <p>第7回 教育課程、生徒指導、安全管理の法制度と学校経営 —講義・自分の意見の記述—</p> <p>第8回 教育課程、生徒指導、安全管理の法制度と学校経営 —小グループでの意見交換—</p> <p>第9回 教育における地方分権と規制緩和 —講義・自分の意見の記述—</p> <p>第10回 教育における地方分権と規制緩和 —小グループでの意見交換—</p> <p>第11回 学校への権限委譲と結果責任の追及 —講義・自分の意見の記述—</p> <p>第12回 学校への権限委譲と結果責任の追及 —小グループでの意見交換—</p> <p>第13回 学校運営参加制度と学校経営 —講義・自分の意見の記述—</p> <p>第14回 学校運営参加制度と学校経営 —小グループでの意見交換—</p> <p>第15回 本授業のまとめ</p> <p>第16回 筆記試験</p>			
<b>教科書</b>			
資料を配付する。			
<b>参考書</b>			
公教育経営概説／堀内孜 編, : 学術図書出版社, 2014, ISBN:9784780603934			
<b>成績評価方法・基準</b>			
「自分の意見の記述」「筆記試験」の2点を総合的に評価する。			

<b>再試験の有無</b>	
<b>受講者へのメッセージ</b>	
<b>JABEE合格</b>	
<b>学習教育目標との関連</b>	
<b>教免科目</b> この授業は、中学校教諭、高等学校教諭(工業を除く)、養護教諭の各種免許状取得のための「教職に関する科目」に該当し、必修科目となっている。	
<b>授業の使用言語</b>	
<b>WEB ページ</b>	
<b>連絡先</b> (E メールアドレス、 オフィスアワー)	
<b>備考</b>	この授業は、中学校教諭、高等学校教諭(工業を除く)、養護教諭の各種免許状取得のための「教職に関する科目」に該当し、必修科目となっている。

開講学期	2年・後期		時間割番号	6S10070
科目分野	教職取得に関する専門科目 [Special Education as to Teaching]			
選必区分	要件外			
科目名	教育課程論 [Curriculum Development]			
ナンバリング				
担当教員	坂田 大輔, 村川 雅弘 [Daisuke Sakata, Masahiro Murakawa]			
単位数	2	対象学生・年次	全コース	
<b>授業の目的</b>				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育課程の概念, 編成原理, 類型, 構造について理解する。</li> <li>・我が国における教育課程の歴史の変遷について理解する。</li> <li>・近年の教育課程改革に関する動向について理解する。</li> </ul>				
<b>授業の概要</b>				
教育課程の概念, 編成原理, 類型, 構造, 及び我が国の教育課程の歴史の変遷についての講義・演習を行う。その過程では, 各自の意見を述べ合う場を設け, お互いの考えを深めることが出来るようにする。				
<b>キーワード</b>				
教育課程の概念・編成原理・類型・構造, 教育課程の歴史の変遷, 教育課程の編成・実施・評価・改善				
<b>到達目標</b>				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育課程の概念, 編成原理, 類型, 構造について説明する。</li> <li>・我が国における教育課程の歴史の変遷について説明する。</li> <li>・近年の教育課程改革に関する動向について説明する。</li> </ul>				
<b>授業の計画</b>				
第1回:オリエンテーション 教育課程の概念(担当:坂田・村川)				
第2回:教育課程の編成原理(担当:坂田)				
第3回:教育課程とカリキュラム(担当:坂田)				
第4回:教育課程の類型(1)分化カリキュラムと統合カリキュラム(担当:坂田)				
第5回:教育課程の類型(2)中間カリキュラム(担当:坂田)				
第6回:学習指導要領に見る教育課程の変遷(1)戦前の教育課程(担当:坂田)				
第7回:学習指導要領に見る教育課程の変遷(2)経験主義(担当:坂田)				
第8回:学習指導要領に見る教育課程の変遷(3)教育の系統化, 現代化(担当:坂田)				
第9回:学習指導要領に見る教育課程の変遷(4)教育の人間化, ゆとりある充実した学校生活(担当:村川)				
第10回: 学習指導要領に見る教育課程の変遷(5)新しい学力観(担当:村川)				
第11回:学習指導要領に見る教育課程の変遷(6)ゆとりの中で生きる力を育む(担当:村川)				
第12回: 現行学習指導要領における教育課程と学習指導要領改訂の方向性(担当:村川)				
第13回:学校現場における教育課程の編成(担当:坂田)				
第14回:教育課程と単元構成(担当:坂田)				
第15回:教育内容と教材, 教科書(担当:坂田)				
第16回:総括授業(担当:坂田)				
<b>教科書</b>				
中学校学習指導要領／文部科学省 [著],: 東山書房, 2008, ISBN:9784827814613, 244 円				
高等学校学習指導要領／文部科学省 [著],: 東山書房, 2009, ISBN:9784827814781, 588 円				
<b>参考書</b>				
<b>教科書・参考書に関する補足情報</b>				
適宜, 関係資料の配付, 参考文献の紹介を行う。				
<b>成績評価方法・基準</b>				
授業への参加態度(15%), 毎時間の小レポート(25%), 最終レポート(60%)により, 総合的に評価する。				

<b>再試験の有無</b>	
<b>受講者へのメッセージ</b> 教育課程に関して学ぶ過程で、教員として必要な資質能力を身につけることをめざします。	
<b>JABEE合格</b> ・復習する際には、ノートに記録している授業の板書と、配付した資料を照らし合わせながら、再度資料を読み込むと理解が進みます。 ・予習する際には、授業の最後に出てくる疑問や、提示するキーワードについて調べてみましょう。	
<b>学習教育目標との関連</b>	
<b>教免科目</b>	
<b>授業の使用言語</b>	
<b>WEB ページ</b>	
<b>連絡先</b> (E メールアドレス, オフィスアワー)	(学生用連絡先) 1 号館中棟 2 階 2M01 号室(教育方法論研究室) TEL 088-656-7203 (メールアドレス) sakata.daisuke@tokushima-u.ac.jp
<b>備考</b>	この授業は、中学校教諭, 高等学校教諭(工業を除く), 養護教諭の各種免許状取得のための「教職に関する科目」に該当し, 必修科目となっている。

開講学期	2年・前期	時間割番号	6S10080
科目分野	教職取得に関する専門科目 [Special Education as to Teaching]		
選必区分	要件外		
科目名	数学科教育法 I [Methodology of Teaching Mathematics I]		
ナンバリング			
担当教員	濱井 利教, 佐伯 昭彦 [Kazuyuki Hamai, Akihiko Saeki]		
単位数	2	対象学生・年次	全コース
<b>授業の目的</b>			
中等数学教育の展開に必要な算数・数学教育の歴史, 目的と目標, 内容と教材及び指導と評価について説明ができるとともに, 授業の構想を立てることができる。			
<b>授業の概要</b>			
中等数学教育の理論と実践についての研究・報告・授業・討議を通して, その基礎的事項の理解を深めるとともに, 確かな数学教育の実践を求めることができる基礎的な資質や能力の向上を目指す。			
<b>キーワード</b>			
<b>到達目標</b>			
中等数学教育の展開に必要な算数・数学教育の歴史, 目的と目標, 内容と教材及び指導と評価について説明ができるとともに, 授業の構想を立てることができる。			
<b>授業の計画</b>			
第1回: 本指導のねらいと展開(担当: 濱井利教)			
第2回: 数学教育の歴史(戦前から系統学習まで)(担当: 濱井利教)			
第3回: 数学教育の歴史(現代化から今日まで)(担当: 濱井利教)			
第4回: 数学教育の目的と目標(担当: 濱井利教)			
第5回: 「数と式」「方程式」に関する内容と教材(担当: 佐伯昭彦)			
第6回: 「高次方程式」「複素数」に関する内容と教材(担当: 佐伯昭彦)			
第7回: 「平面図形」「空間図形」に関する内容と教材(担当: 佐伯昭彦)			
第8回: 「図形の性質」「証明・計算と図形」に関する内容と教材(担当: 佐伯昭彦)			
第9回: 「関数」に関する内容と教材(担当: 佐伯昭彦)			
第10回: 「資料と活用」「確率」に関する内容と教材(担当: 佐伯昭彦)			
第11回: 数学教育における指導法(担当: 濱井利教)			
第12回: 数学教育におけるテクノロジー(担当: 佐伯昭彦)			
第13回: 数学教育における評価(担当: 濱井利教)			
第14回: 数学教育におけるカリキュラム(担当: 濱井利教)			
第15回: 数学教育における実践と授業研究(担当: 濱井利教)			
定期試験			
<b>教科書</b>			
数学教育の理論と実際: 中学校・高等学校(必修)/数学教育研究会 編, 聖文新社, 2010, ISBN:9784792200992			
中学校学習指導要領, ISBN:不明			
高等学校学習指導要領, ISBN:不明			
<b>参考書</b>			
中学校学習指導要領解説: 数学編/文部科学省 [著], 教育出版, 2008, ISBN:9784316300139			
高等学校学習指導要領解説/文部科学省 [著], 実教出版, 2009, ISBN:9784407319255			
<b>成績評価方法・基準</b>			
レポート, 授業における報告, 受講状況及びテスト等により, それらを総合的に判断し評価とする。			
<b>再試験の有無</b>			



<b>受講者へのメッセージ</b>	
JABEE合格	
<b>学習教育目標との関連</b>	
<b>教免科目</b> この授業は「中学校・数学」「高等学校・数学」の教員免許状取得のための「教職に関する科目」(選択科目)に該当する。	
<b>授業の使用言語</b>	
<b>WEB ページ</b>	
<b>連絡先</b> (E メールアドレス, オフィスアワー)	(学生用連絡先) 守安 一峰(総合科学部1号館2S20, 088-656-7220) (メールアドレス) moriyasu@tokushima-u.ac.jp
<b>備考</b>	隔年開講, 平成30年度は開講しない。

開講学期	2年・前期	時間割番号	6S10090
科目分野	教職取得に関する専門科目 [Special Education as to Teaching]		
選必区分	要件外		
科目名	数学科教育法Ⅱ [Methodology of Teaching Mathematics II]		
ナンバリング			
担当教員	濱井 利教, 佐伯 昭彦 [Kazuyuki Hamai, Akihiko Saeki]		
単位数	2	対象学生・年次	全コース
<b>授業の目的</b>			
中等数学教育の歴史, 目的と目標, カリキュラムと教材, 指導と評価等に関する基礎的な理論と内容について説明・プレゼンテーションを行うことができる。			
<b>授業の概要</b>			
中等数学教育の理論と内容について報告・提案・討議を通して, その基礎的事項の理解を深めるとともに中等数学の確かな実践を進めることのできる指導力形成を図る。			
<b>キーワード</b>			
<b>到達目標</b>			
中等数学教育の歴史, 目的と目標, カリキュラムと教材, 指導と評価等に関する基礎的な理論と内容について説明・プレゼンテーションを行うことができる。			
<b>授業の計画</b>			
第1回: 本授業のねらいとその展開(担当: 濱井利教)			
第2回: 数学教育の目的と目標(担当: 濱井利教)			
第3回: 数学教育の方法(担当: 濱井利教)			
第4回: 数学教育における評価(担当: 濱井利教)			
第5回: 数学教育の今日的課題(担当: 佐伯昭彦)			
第6回: 中学校「数と式」領域の内容と教材(担当: 濱井利教)			
第7回: 中学校「図形」領域の内容と教材(担当: 濱井利教)			
第8回: 中学校「関数」領域の内容と教材(担当: 濱井利教)			
第9回: 中学校「資料の活用」領域の内容と教材(担当: 濱井利教)			
第10回: 高等学校における数学の概要(担当: 佐伯昭彦)			
第11回: 高等学校数学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの「数と式」「図形」領域の内容と教材(担当: 佐伯昭彦)			
第12回: 高等学校数学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの「各種関数」「微分・積分と極限」領域の内容と教材 (担当: 佐伯昭彦)			
第13回: 高等学校数学A・B・数学活用の「確率・統計」「数列」領域の内容と教材 (担当: 佐伯昭彦)			
第14回: 高等学校数学A・B・数学活用「ベクトル」「活用」領域の内容と教材 (担当: 佐伯昭彦)			
第15回: 授業改善と数学教育研究(担当: 佐伯昭彦)			
定期試験			
<b>教科書</b>			
数学教育の理論と実際: 中学校・高等学校(必修)/数学教育研究会 編, 聖文新社, 2010, ISBN:9784792200992			
中学校学習指導要領, ISBN:不明			
高等学校学習指導要領, ISBN:不明			
<b>参考書</b>			
中学校学習指導要領解説: 数学編/文部科学省 [著], 教育出版, 2008, ISBN:9784316300139			
高等学校学習指導要領解説/文部科学省 [著], 実教出版, 2009, ISBN:9784407319255			
<b>成績評価方法・基準</b>			
レポート, 授業における報告・提案及びテストを行い, 総合的に判断し評価する。			

<b>再試験の有無</b>	
<b>受講者へのメッセージ</b>	
<b>JABEE合格</b>	
<b>学習教育目標との関連</b>	
<b>教免科目</b> この授業は「中学校・数学」「高等学校・数学」の教員免許状取得のための「教職に関する科目」(選択科目)に該当する。	
<b>授業の使用言語</b>	
<b>WEB ページ</b>	
<b>連絡先</b> (E メールアドレス, オフィスアワー)	(学生用連絡先) 守安 一峰(総合科学部1号館2S20, 088-656-7220) (メールアドレス) moriyasu@tokushima-u.ac.jp
<b>備考</b>	隔年開講, 平成30年度開講。

開講学期	2年・後期	時間割番号	6S10100
科目分野	教職取得に関する専門科目 [Special Education as to Teaching]		
選必区分	要件外		
科目名	数学科教育法Ⅲ [Methodology of Teaching Mathematics III]		
ナンバリング			
担当教員	濱井 利教, 佐伯 昭彦 [Kazuyuki Hamai, Akihiko Saeki]		
単位数	2	対象学生・年次	全コース
<b>授業の目的</b>			
中等数学教育における典型的な教材を取り上げ、指導について工夫した模擬授業を実施し、討議を通して改善策を策定できる。			
<b>授業の概要</b>			
中等数学の教材と実践的な指導法の研究を、模擬授業の形態を用いて展開する。このとき受講生は個人又はグループでの研究、報告、提案とともに討議を行い、理解を深める。			
<b>キーワード</b>			
<b>到達目標</b>			
中等数学教育における典型的な教材を取り上げ、指導について工夫した模擬授業を実施し、討議を通して改善策を策定できる。			
<b>授業の計画</b>			
第1回: 本授業のねらいと展開(担当: 濱井利教)			
第2回: 小学校算数と中学校数学の教材の関連性と系統性(担当: 濱井利教)			
第3回: 数と文字式に関する教材とその指導(担当: 濱井利教)			
第4回: 式の四則計算・因数分解・1次方程式に関する教材とその指導(担当: 濱井利教)			
第5回: 連立方程式・2次方程式に関する教材とその指導(担当: 濱井利教)			
第6回: 平面図形・合同・相似に関する教材とその指導(担当: 濱井利教)			
第7回: 空間図形に関する教材とその指導(担当: 濱井利教)			
第8回: 円周角・三平方の定理に関する教材とその指導(担当: 濱井利教)			
第9回: 1次関数・2次関数に関する教材とその指導(担当: 佐伯昭彦)			
第10回: 資料の整理・確率・標本調査に関する教材とその指導(担当: 佐伯昭彦)			
第11回: 数学科の指導と数学的活動(担当: 佐伯昭彦)			
第12回: 数と式領域における中学校と高等学校の教材の関連性と系統性(担当: 佐伯昭彦)			
第13回: 関数領域における中学校と高等学校の教材の関連性・系統性(担当: 佐伯昭彦)			
第14回: 図形・資料の活用領域における中学校と高等学校の教材の関連性・系統性 (担当: 佐伯昭彦)			
第15回: 数学教育と授業研究(担当: 佐伯昭彦)			
定期試験			
<b>教科書</b>			
中学校学習指導要領, ISBN: 不明			
高等学校学習指導要領, ISBN: 不明			
<b>参考書</b>			
小学校学習指導要領解説／文部科学省 [著], : 東洋館出版社, 2008, ISBN: 9784491023731			
中学校学習指導要領解説 : 数学編／文部科学省 [著], : 教育出版, 2008, ISBN: 9784316300139			
高等学校学習指導要領解説／文部科学省 [著], : 実教出版, 2009, ISBN: 9784407319255			
<b>成績評価方法・基準</b>			
レポート, 模擬授業の様子, 討議及びテストそれぞれの成績を総合的に判断し評価する。			
<b>再試験の有無</b>			
<b>受講者へのメッセージ</b>			

<b>JABEE合格</b>	
<b>学習教育目標との関連</b>	
<b>教免科目</b> この授業は「中学校・数学」「高等学校・数学」の教員免許状取得のための「教職に関する科目」(選択科目)に該当する。	
<b>授業の使用言語</b>	
<b>WEB ページ</b>	
<b>連絡先</b> (E メールアドレス, オフィスアワー)	(学生用連絡先) 守安 一峰(総合科学部1号館2S20, 088-656-7220) (メールアドレス) moriyasu@tokushima-u.ac.jp
<b>備考</b>	隔年開講, 平成30年度は開講しない。

開講学期	2年・後期	時間割番号	6S10110
科目分野	教職取得に関する専門科目 [Special Education as to Teaching]		
選必区分	要件外		
科目名	数学科教育法Ⅳ [Methodology of Teaching Mathematics Ⅳ]		
ナンバリング			
担当教員	濱井 利教, 佐伯 昭彦 [Kazuyuki Hamai, Akihiko Saeki]		
単位数	2	対象学生・年次	全コース
<b>授業の目的</b>			
中等数学教育の基礎的な理論と指導法について説明ができ、指導計画の立案から展開までの過程を模擬授業を通して実施できるとともに、模擬授業の改善策を計画できる。			
<b>授業の概要</b>			
中等数学教育で用いられる典型的な教材をもとに教材研究と指導法の研究を行い、模擬授業を展開する中で参加者相互に評価しあいよりよい授業を展開する確かな実践力の育成を図る。			
<b>キーワード</b>			
<b>到達目標</b>			
中等数学教育の基礎的な理論と指導法について説明ができ、指導計画の立案から展開までの過程を模擬授業を通して実施できるとともに、模擬授業の改善策を計画できる。			
<b>授業の計画</b>			
第1回: 本授業のねらいと展開(担当: 濱井利教)			
第2回: 数学教育の目的と課題(担当: 濱井利教)			
第3回: 中学校数学の教材構成(担当: 濱井利教)			
第4回: 中学校「数と式」領域の教材と指導(担当: 濱井利教)			
第5回: 中学校「図形」領域の教材とその指導(担当: 濱井利教)			
第6回: 中学校「関数」領域の教材とその指導(担当: 濱井利教)			
第7回: 中学校「資料の活用」領域の教材とその指導(担当: 濱井利教)			
第8回: 高等学校数学の教材構成(担当: 佐伯昭彦)			
第9回: 高等学校数学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ「数と式」「図形」領域の教材とその指導(担当: 佐伯昭彦)			
第10回: 高等学校数学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ「各種関数」領域の教材とその指導(担当: 佐伯昭彦)			
第11回: 高等学校数学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ「微分・積分・極限」領域の教材とその指導(担当: 佐伯昭彦)			
第12回: 高等学校数学A・B・数学活用「確率統計」「数列」領域の教材とその指導 (担当: 佐伯昭彦)			
第13回: 高等学校数学A・B・数学活用「ベクトル」「活用」領域の教材とその指導 (担当: 佐伯昭彦)			
第14回: 中等数学教育のカリキュラムと授業研究(担当: 佐伯昭彦)			
第15回: 授業改善と数学教育研究(担当: 佐伯昭彦)			
定期試験			
<b>教科書</b>			
中学校学習指導要領, ISBN:不明			
高等学校学習指導要領, ISBN:不明			
<b>参考書</b>			
中学校学習指導要領解説: 数学編/文部科学省 [著], :教育出版, 2008, ISBN:9784316300139			
高等学校学習指導要領解説/文部科学省 [著], :実教出版, 2009, ISBN:9784407319255			
<b>成績評価方法・基準</b>			
レポート, 模擬授業, 討議およびテストを総合的に判断し評価する。			
<b>再試験の有無</b>			

<b>受講者へのメッセージ</b>	
<b>JABEE合格</b>	
<b>学習教育目標との関連</b>	
<b>教免科目</b> この授業は「中学校・数学」「高等学校・数学」の教員免許状取得のための「教職に関する科目」(選択科目)に該当する。	
<b>授業の使用言語</b>	
<b>WEB ページ</b>	
<b>連絡先</b> (E メールアドレス, オフィスアワー)	(学生用連絡先) 守安 一峰(総合科学部1号館2S20, 088-656-7220) (メールアドレス) moriyasu@tokushima-u.ac.jp
<b>備考</b>	隔年開講, 平成30年度開講。

開講学期	2年・前期	時間割番号	6S10120
科目分野	教職取得に関する専門科目 [Special Education as to Teaching]		
選必区分	要件外		
科目名	理科教育法 I [Methodology of Teaching Science I]		
ナンバリング			
担当教員	渡部 稔, 齊藤 隆仁, 南川 慶二, 古屋 玲, 續木 章三 [Minoru Watanabe, Takahito Saito, Keiji Minagawa, FURUYA RAY S., TSUZUKI SHIYOZO]		
単位数	2	対象学生・年次	全コース
<b>授業の目的</b>			
中・高等学校「理科」の実践的指導法を学ぶのが理科教育法である。この理科教育法 I では、理科教育の現状と課題・理科教育の歴史等について学び、物理分野の内容についての教材研究や模擬授業等の実践的な教育を行うことを通して、身近な物理現象、電流とその利用、運動とエネルギーなどについて理解させ、これらの事象・現象に対する科学的な見方や考え方を養うことを目的とする。			
<b>授業の概要</b>			
中・高等学校「理科」の現状・課題・歴史および物理分野の実践教育			
<b>キーワード</b>			
理科教育の歴史、中学校・高等学校の理科教育、物理分野の教材研究と模擬授業			
<b>関連科目</b>			
『理科教育法Ⅱ [Methodology of Teaching Science II]』(0.5)、『理科教育法Ⅲ [Methodology of Teaching Science III]』(0.5)、『理科教育法Ⅳ [Methodology of Teaching Science IV]』(0.5)			
<b>到達目標</b>			
1. 理科教育の現状と課題・理科教育の歴史等について学び、物理分野の内容についての教材研究や模擬授業等の実践的な教育を行うことを通して、身の回りの物質、化学変化と原子・分子などについて理解させ、これらの事象・現象に対する科学的な見方や考え方を養う。			
<b>授業の計画</b>			
第1回:理科教育の現状と課題(担当:続木)			
第2回:理科教育のめざすもの(担当:続木)			
第3回:理科教育のあゆみ(明治から終戦まで)(担当:続木)			
第4回:理科教育のあゆみ(戦後から現代まで)(担当:続木)			
第5回:生活と科学技術(担当:続木)			
第6回:理科の科目と内容(担当:続木)			
第7回:理科の学習計画とは(担当:続木)			
第8回:物理領域(電流と磁界)における学習指導案作りと教材研究(担当:齊藤)			
第9回:物理領域(電流と磁界)の内容に沿った模擬授業(担当:齊藤)			
第10回:物理領域(光と音)における学習指導案作りと教材研究(担当:齊藤)			
第11回:物理領域(光と音)の内容に沿った模擬授業(担当:齊藤)			
第12回:物理領域(力と圧力)における学習指導案作りと教材研究(担当:齊藤)			
第13回:物理領域(力と圧力)の内容に沿った模擬授業(担当:齊藤)			
第14回:物理領域(運動の規則性)における学習指導案作りと教材研究(担当:齊藤)			
第15回:物理領域(運動の規則性)の内容に沿った模擬授業(担当:齊藤)			
第16回:総括授業(担当:齊藤)			
<b>教科書</b>			
中学校学習指導要領／文部科学省 [著],: 東山書房, 2008, ISBN:9784827814613, 244円			
高等学校学習指導要領／文部科学省 [著],: 東山書房, 2009, ISBN:9784827814781, 588円			
随時プリントを配布する。			
<b>参考書</b>			
中学校学習指導要領解説 : 理科編／文部科学省 [著],: 大日本図書, 2008, ISBN:9784477019796			



<p>高等学校学習指導要領解説 理科編 理数編／文部科学省 [著],:実教出版, 2009, ISBN:9784407319262                  理科教育学／寺川智裕:福村出版, 1990, ISBN:9784571105616                  授業に活かす!理科教育法／左巻健男, 内村浩 編著,:東京書籍, 2009, ISBN:9784487803354                  文部科学省「中学校学習指導要領解説 理科編」, 文部科学省「高等学校学習指導要領解説 理科編 理数編」 これら2点は文科省の HP からダウンロードできる。</p>	
<p><b>成績評価方法・基準</b>                  発表・質問など授業に対する積極的な取り組みと, 授業中の小テストおよびレポートを総合的に評価する。</p>	
<p><b>再試験の有無</b>                  行わない。</p>	
<p><b>受講者へのメッセージ</b>                  出席も評価の対象となるので, 授業には必ず出席すること。</p>	
<p><b>JABEE合格</b></p>	
<p><b>学習教育目標との関連</b></p>	
<p><b>教免科目</b>                  理科</p>	
<p><b>授業の使用言語</b></p>	
<p><b>WEB ページ</b></p>	
<p><b>連絡先</b>                  (E メールアドレス,                  オフィスアワー)</p>	<p>(学生用連絡先)                  渡部 稔:総合科学部 1 号館中棟 1 階1M19 室、088-656-7253                  (メールアドレス)                  渡部 稔:minoru@tokushima-u.ac.jp                  (オフィスアワー)                  渡部 稔:随時ですが、事前に連絡を取っていただけるとありがたいです。</p>
<p><b>備考</b></p>	<p>1. 隔年開講の授業のため、30 年度は開講しない。                  この授業は、「中学校・理科」「高等学校・理科」の教員免許状取得のための「教科に関する科目」に該当する。</p>

開講学期	2年・前期	時間割番号	6S10130
科目分野	教職取得に関する専門科目 [Special Education as to Teaching]		
選必区分	要件外		
科目名	理科教育法Ⅱ [Methodology of Teaching Science Ⅱ]		
ナンバリング			
担当教員	渡部 稔, 齊藤 隆仁, 南川 慶二, 古屋 玲, 續木 章三 [Minoru Watanabe, Takahito Saito, Keiji Minagawa, FURUYA RAY S., TSUZUKI SHIYOZO]		
単位数	2	対象学生・年次	全コース
<b>授業の目的</b>			
中・高等学校「理科」の実践的指導法を学ぶのが理科教育法である。この理科教育法Ⅱでは、理科教育の諸問題・理科教育課程の変遷等について学び、化学分野の内容についての教材研究や模擬授業等の実践的な教育を通して、身の回りの物質、化学変化と原子・分子、化学変化とイオンなどについて理解させ、これらの事物・現象に対する科学的な見方や考え方を養うことを目的とする。			
<b>授業の概要</b>			
中・高等学校「理科」の現状・課題・歴史および化学分野の実践教育			
<b>キーワード</b>			
理科教育の諸問題と変遷、中学校・高等学校の理科教育、化学分野の教材研究と模擬授業			
<b>先行科目</b>			
『理科教育法Ⅰ [Methodology of Teaching Science Ⅰ]』(1.0)			
<b>関連科目</b>			
『理科教育法Ⅲ [Methodology of Teaching Science Ⅲ]』(0.5), 『理科教育法Ⅳ [Methodology of Teaching Science Ⅳ]』(0.5)			
<b>到達目標</b>			
1. 理科教育の諸問題・理科教育課程の変遷等について学び、化学分野の内容についての教材研究や模擬授業等の実践的な教育を通して、化学変化とイオンなどについて理解させ、これらの事物・現象に対する科学的な見方や考え方を養う。			
<b>授業の計画</b>			
第1回:理科教育における諸問題(担当:続木)			
第2回:理科の目標と基本概念(担当:続木)			
第3回:海外の教育制度の成り立ちと変遷(担当:続木)			
第4回:日本の教育制度の成り立ちと変遷(担当:続木)			
第5回:科学と技術(担当:続木)			
第6回:理科の指導方法(担当:続木)			
第7回:学習指導要領と理科(担当:続木)			
第8回:化学領域(水溶液)における学習指導案作りと教材研究(担当:南川)			
第9回:化学領域(水溶液)の内容に沿った模擬授業(担当:南川)			
第10回:化学領域(水溶液とイオン)における学習指導案作りと教材研究(担当:南川)			
第11回:化学領域(水溶液とイオン)の内容に沿った模擬授業(担当:南川)			
第12回:化学領域(化学変化)における学習指導案作りと教材研究(担当:南川)			
第13回:化学領域(化学変化)の内容に沿った模擬授業(担当:南川)			
第14回:化学領域(化学変化と物質の質量)における学習指導案作りと教材研究(担当:南川)			
第15回:化学領域(化学変化と物質の質量)の内容に沿った模擬授業(担当:南川)			
第16回:総括授業(担当:南川)			
<b>教科書</b>			
中学校学習指導要領／文部科学省 [著],: 東山書房, 2008, ISBN:9784827814613, 244円			
高等学校学習指導要領／文部科学省 [著],: 東山書房, 2009, ISBN:不明, 588円			
随時プリントを配布する。			
<b>参考書</b>			
中学校学習指導要領解説 : 理科編／文部科学省 [著],: 大日本図書, 2008, ISBN:9784477019796			

<p>高等学校学習指導要領解説／文部科学省 [著],:実教出版, 2009, ISBN:9784407319262                  理科教育学／寺川智裕:福村出版, ISBN:9784571105616                  授業に活かす!理科教育法／左巻健男, 内村浩 編著,:東京書籍, 2009, ISBN:9784487803354                  文部科学省「中学校学習指導要領解説 理科編」, 文部科学省「高等学校学習指導要領解説 理科編 理数編」 これら2点は文科省のHPからダウンロードできる。</p>	
<p><b>成績評価方法・基準</b>                  発表・質問など授業に対する積極的な取り組みと, 授業中の小テストおよびレポートを総合的に評価する。</p>	
<p><b>再試験の有無</b>                  行わない。</p>	
<p><b>受講者へのメッセージ</b>                  出席も評価の対象となるので, 授業には必ず出席すること。</p>	
<p><b>JABEE合格</b></p>	
<p><b>学習教育目標との関連</b></p>	
<p><b>教免科目</b>                  理科</p>	
<p><b>授業の使用言語</b></p>	
<p><b>WEB ページ</b></p>	
<p><b>連絡先</b>                  (E メールアドレス,                  オフィスアワー)</p>	<p>(学生用連絡先)                  渡部 稔:総合科学部 1 号館中棟 1 階1M19 室、088-656-7253                  (メールアドレス)                  渡部 稔:minoru@tokushima-u.ac.jp                  (オフィスアワー)                  渡部 稔:随時ですが、事前に連絡を取っていただけるとありがたいです。</p>
<p><b>備考</b></p>	<p>1. 隔年開講の授業で、30年度は開講する。                  この授業は、「中学校・理科」「高等学校・理科」の教員免許状取得のための「教職に関する科目」に該当する。</p>

開講学期	2年・後期	時間割番号	6S10140
科目分野	教職取得に関する専門科目 [Special Education as to Teaching]		
選必区分	要件外		
科目名	理科教育法Ⅲ [Methodology of Teaching Science III]		
ナンバリング			
担当教員	渡部 稔, 齊藤 隆仁, 南川 慶二, 古屋 玲, 續木 章三 [Minoru Watanabe, Takahito Saito, Keiji Minagawa, FURUYA RAY S., TSUZUKI SHIYOZO]		
単位数	2	対象学生・年次	全コース
<b>授業の目的</b>			
中・高等学校「理科」の実践的指導法を学ぶのが理科教育法である。この理科教育法Ⅲでは、理科の学習指導計画、教具・教材開発等について学び、生物分野の内容についての教材研究や模擬授業等の実践的な教育を通して、生物の生活と種類、生命の連続性などについて理解させ、これらの事物・現象に対する科学的な見方や考え方を養うことを目的とする。			
<b>授業の概要</b>			
中・高等学校「理科」の現状・課題・歴史および生物分野の実践教育			
<b>キーワード</b>			
理科の学習指導計画、理科の教具・教材開発、中学校・高等学校の理科教育、生物分野の教材研究と模擬授業			
<b>先行科目</b>			
『理科教育法Ⅰ [Methodology of Teaching Science I]』(1.0)、『理科教育法Ⅱ [Methodology of Teaching Science II]』(1.0)			
<b>関連科目</b>			
『理科教育法Ⅳ [Methodology of Teaching Science IV]』(0.5)			
<b>到達目標</b>			
1. 理科の学習指導計画、教具・教材開発等について学び、生物分野の内容についての教材研究や模擬授業等の実践的な教育を通して、生物の生活と種類、生命の連続性などについて理解させ、これらの事物・現象に対する科学的な見方や考え方を養う。			
<b>授業の計画</b>			
第1回:「科学的方法」とは(担当:続木)			
第2回:教育課程と年間指導計画表(担当:続木)			
第3回:年間指導計画と学習指導案(担当:続木)			
第4回:理科学習と評価(担当:続木)			
第5回:理科学習とものづくり(担当:続木)			
第6回:理科学習と安全教育(担当:続木)			
第7回:理科と環境問題(担当:続木)			
第8回:生物領域(植物の体のつくりと働き)における学習指導案作りと教材研究(担当:渡部)			
第9回:生物領域(植物の体のつくりと働き)の内容に沿った模擬授業(担当:渡部)			
第10回:生物領域(動物の体のつくりと働き)における学習指導案作りと教材研究(担当:渡部)			
第11回:生物領域(動物の体のつくりと働き)の内容に沿った模擬授業(担当:渡部)			
第12回:生物領域(生物の成長と殖え方)における学習指導案作りと教材研究(担当:渡部)			
第13回:生物領域(生物の成長と殖え方)の内容に沿った模擬授業(担当:渡部)			
第14回:生物領域(遺伝の規則性と遺伝子)における学習指導案作りと教材研究(担当:渡部)			
第15回:生物領域(遺伝の規則性と遺伝子)の内容に沿った模擬授業(担当:渡部)			
第16回:生物領域における模擬授業の成果と課題(担当:渡部)			
<b>教科書</b>			
中学校学習指導要領／文部科学省 [著],: 東山書房, 2008, ISBN:9784827814613, 244円			
高等学校学習指導要領／文部科学省 [著],: 東山書房, ISBN:不明, 588円			
随時プリントを配布する。			
<b>参考書</b>			
中学校学習指導要領解説 : 理科編／文部科学省 [著],: 大日本図書, 2008, ISBN:9784477019796			

<p>高等学校学習指導要領解説:理科編 理数編/文部科学省 [著],:実教出版, 2009, ISBN:9784407319262                  理科教育学/寺川智裕:福村出版, ISBN:9784571105616                  授業に活かす!理科教育法/左巻健男, 内村浩 編著,:東京書籍, 2009, ISBN:9784487803354                  文部科学省「中学校学習指導要領解説 理科編」, 文部科学省「高等学校学習指導要領解説 理科編 理数編」 これら2点は文科省のHPからダウンロードできる。</p>	
<p><b>成績評価方法・基準</b>                  発表・質問など授業に対する積極的な取り組みと, 授業中の小テストおよびレポートを総合的に評価する。</p>	
<p><b>再試験の有無</b>                  行わない。</p>	
<p><b>受講者へのメッセージ</b>                  出席も評価の対象となるので, 授業には必ず出席すること。</p>	
<p><b>JABEE合格</b></p>	
<p><b>学習教育目標との関連</b></p>	
<p><b>教免科目</b>                  理科</p>	
<p><b>授業の使用言語</b></p>	
<p><b>WEB ページ</b></p>	
<p><b>連絡先</b>                  (E メールアドレス,                  オフィスアワー)</p>	<p>(学生用連絡先)                  渡部 稔:総合科学部 1 号館中棟 1 階1M19 室、088-656-7253                  (メールアドレス)                  渡部 稔:minoru@tokushima-u.ac.jp                  (オフィスアワー)                  渡部 稔:随時ですが、事前に連絡を取っていただけるとありがたいです。</p>
<p><b>備考</b></p>	<p>1. 隔年開講の授業のため、30 年度は開講しない。                  この授業は、「中学校・理科」「高等学校・理科」の教員免許状取得のための「教職に関する科目」に該当する。</p>

開講学期	2年・後期	時間割番号	6S10150
科目分野	教職取得に関する専門科目 [Special Education as to Teaching]		
選必区分	要件外		
科目名	理科教育法Ⅳ [Methodology of Teaching Science Ⅳ]		
ナンバリング			
担当教員	渡部 稔, 齊藤 隆仁, 南川 慶二, 古屋 玲, 續木 章三 [Minoru Watanabe, Takahito Saito, Keiji Minagawa, FURUYA RAY S., TSUZUKI SHIYOZO]		
単位数	2	対象学生・年次	全コース
<b>授業の目的</b>			
中・高等学校「理科」の実践的指導法を学ぶのが理科教育法である。この理科教育法Ⅳでは、理科の学習指導計画、教具・教材開発等について学び、地学分野の内容についての教材研究や模擬授業等の実践的な教育を行うことを通じて、大地の成り立ちと変化、気象とその変化、地球と宇宙などについて理解させ、これらの事物・現象に対する科学的な見方や考え方を養うことを目的とする。			
<b>授業の概要</b>			
中・高等学校「理科」の現状・課題・歴史および地学分野の実習教育			
<b>キーワード</b>			
理科の学習指導計画、理科の教具・教材開発、中学校・高等学校の理科教育、地学分野の教材研究と模擬授業			
<b>先行科目</b>			
『理科教育法Ⅰ [Methodology of Teaching Science Ⅰ]』(1.0), 『理科教育法Ⅱ [Methodology of Teaching Science Ⅱ]』(1.0), 『理科教育法Ⅳ [Methodology of Teaching Science Ⅳ]』(1.0)			
<b>到達目標</b>			
1. 理科の学習指導計画、教具・教材開発等について学び、地学分野の内容についての教材研究や模擬授業等の実践的な教育を行うことを通じて、地球と宇宙などについて理解させ、これらの事物・現象に対する科学的な見方や考え方を養う。			
<b>授業の計画</b>			
第1回: 科学的方法と態度(担当: 続木)			
第2回: 理科学習と年間指導計画(担当: 続木)			
第3回: 学習指導案の作成の目的(担当: 続木)			
第4回: 学習指導案の作成の実際(担当: 続木)			
第5回: 理科の教材・教具の開発(担当: 続木)			
第6回: 理科における事故の防止(担当: 続木)			
第7回: 理科学習と環境教育(担当: 続木)			
第8回: 地学領域(火山と地震)における学習指導案作りと教材研究(担当: 古屋)			
第9回: 地学領域(火山と地震)の内容に沿った模擬授業(担当: 古屋)			
第10回: 地学領域(気候の変化)における学習指導案作りと教材研究(担当: 古屋)			
第11回: 地学領域(気候の変化)の内容に沿った模擬授業(担当: 古屋)			
第12回: 地学領域(地球の自転・公転)における学習指導案作りと教材研究(担当: 古屋)			
第13回: 地学領域(地球の自転・公転)の内容に沿った模擬授業(担当: 古屋)			
第14回: 地学領域(太陽系と恒星)における学習指導案作りと教材研究(担当: 古屋)			
第15回: 地学領域(太陽系と恒星)の内容に沿った模擬授業(担当: 古屋)			
第16回: 総括授業(担当: 古屋)			
<b>教科書</b>			
中学校学習指導要領／文部科学省 [著],: 東山書房, 2008, ISBN:9784827814613, 244円			
高等学校学習指導要領／文部科学省 [著],: 東山書房, 2009, ISBN:不明, 588円			
随時資料を配布する。			
<b>参考書</b>			
中学校学習指導要領解説 : 理科編／文部科学省 [著],: 大日本図書, 2008, ISBN:9784477019796			
高等学校学習指導要領解説:理科編 理科編／文部科学省 [著],: 実教出版, 2009, ISBN:9784407319262			
理科教育学／寺川智裕:福村出版, ISBN:9784571105616			

<p>授業に活かす!理科教育法／左巻健男, 内村浩 編著, :東京書籍, 2009, ISBN:9784487803354                  部科学省「中学校学習指導要領解説 理科編」, 文部科学省「高等学校学習指導要領解説 理科編 理数編」 これら2点は文科省のHPからダウンロードできる。</p>	
<p><b>成績評価方法・基準</b>                  発表・質問など授業に対する積極的な取り組みと, 授業中の小テストおよびレポートを総合的に評価する。</p>	
<p><b>再試験の有無</b>                  行わない。</p>	
<p><b>受講者へのメッセージ</b>                  出席も評価の対象となるので, 授業には必ず出席すること。</p>	
<p><b>JABEE合格</b></p>	
<p><b>学習教育目標との関連</b></p>	
<p><b>教免科目</b>                  理科</p>	
<p><b>授業の使用言語</b></p>	
<b>WEB ページ</b>	
<b>連絡先</b> (E メールアドレス, オフィスアワー)	(学生用連絡先) 渡部 稔:総合科学部1号館中棟1階1M19室、088-656-7253 (メールアドレス) 渡部 稔:minoru@tokushima-u.ac.jp (オフィスアワー) 渡部 稔:随時ですが、事前に連絡を取っていただけるとありがたいです。
<b>備考</b>	<p>1. 隔年開講の授業で、平成30年度は開講する。                  この授業は、「中学校・理科」「高等学校・理科」の教員免許状取得のための「教職に関する科目」に該当する。</p>

開講学期	3年・前期	時間割番号	6S10160
科目分野	教職取得に関する専門科目 [Special Education as to Teaching]		
選必区分	要件外		
科目名	情報科教育法 I [Informatics Education I]		
ナンバリング			
担当教員	中山 慎一 [Shinichi Nakayama]		
単位数	2	対象学生・年次	全コース
<b>授業の目的</b>			
本講義は、教員免許「情報」を取得しようとする者への授業である。情報に関する専門知識や技能等だけでなく、多くの情報技術者、研究者が学んでいる。しかし、「情報」を担当する教師は、情報に関する専門知識と同等に指導法を身につけなければならない。よって、本講義では情報教育における、目標、授業法などに関する理解を深め、授業を行うのに必要な実践力を養う。			
<b>授業の概要</b>			
高等学校普通教科「情報」における教育法について学ぶ授業である。情報の授業というと、パソコンなどの情報機器の利用の仕方について学ぶと思われがちであるが、普通教科「情報」の目標はそうではない。情報化社会において、莫大な情報の中から必要な情報を取得し処理する能力を身に付けさせるのが目標である。よって、それらの能力をどのように指導し身に付けさせるかについて講義する。			
<b>キーワード</b>			
情報, 教育法			
<b>到達目標</b>			
1. 情報教育における目標や授業法などに関する理解を深め、また、模擬授業を通し指導法を習得することを目標とする。			
<b>授業の計画</b>			
1. 情報教育の目標			
2. 普通教科「情報」(1) 趣旨, (2) 目的, (3) 科目			
3. 普通教科「情報」の科目編成, および, 各科目位置付け			
4. 「社会と情報」の目標と内容			
5. 「情報の科学」の目標と内容			
6. 新・旧学習指導要領の違い			
7. 情報活用の実践力の指導法			
8. 情報の科学的な理解の指導法			
9. ハードウェアに関する教育法			
10. ソフトウェアに関する教育法			
11. データ通信に関する教育法			
12. コミュニケーション, プレゼンテーションに関する教育法			
13. 教育課程の編成			
14. 学習指導案作成			
15. まとめ			
16. 定期試験			
<b>教科書</b>			
学習指導要領, ISBN:不明 プリント			
<b>参考書</b>			
情報科教育法／久野靖・辰己丈夫 [監修]:オーム社, ISBN:9784274079221			
<b>成績評価方法・基準</b>			
演習, レポート, 成果発表で総合的に判断する			
<b>再試験の有無</b>			
行わない			



<b>受講者へのメッセージ</b>	
<b>JABEE合格</b>	
<b>学習教育目標との関連</b>	
<b>教免科目</b>	
<b>授業の使用言語</b>	
<b>WEB ページ</b>	
<b>連絡先</b> (E メールアドレス, オフィスアワー)	(学生用連絡先) 中山慎一(1号館2階 2S07 号室) (メールアドレス) shin@tokushima-u.ac.jp (オフィスアワー) 金曜日 17:00~18:00
<b>備考</b>	この科目は教員免許状の「教科に関する科目(情報)」の単位となります。

開講学期	3年・後期	時間割番号	6S10170
科目分野	教職取得に関する専門科目 [Special Education as to Teaching]		
選必区分	要件外		
科目名	情報科教育法Ⅱ [Informatics Education Ⅱ]		
ナンバリング			
担当教員	中山 慎一 [Shinichi Nakayama]		
単位数	2	対象学生・年次	全コース
<b>授業の目的</b>			
情報教育とはコンピュータの操作などを教える事と思われる節があるが、それだけでは十分でなく情報に関する多面的な知識を持ち、かつ、それらについて効率的に教育する方法を身に付ける必要もある。そのために、まずは情報教育法について学ぶ。その後、学んだ情報教育法を基に実際に模擬授業を行い、受講者による相互評価を通して自らの授業法について確認、および、改善を行う。			
<b>授業の概要</b>			
本講義では、情報科教育法Ⅰでの講義を踏まえ、学習指導要領に基づいた教育法について考察する。また、学習指導案の作成と模擬授業を行い、教育実習にもつなげる。			
<b>キーワード</b>			
情報, 教育法			
<b>到達目標</b>			
1. 情報教育における目標や授業法などに関する理解を深め、また、模擬授業を通し指導法を習得することを目標とする。			
<b>授業の計画</b>			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 普通教科「情報」と専門教科「情報」との目標の違い</li> <li>2. 普通教科「情報」の指導計画の作成と実習の位置付け</li> <li>3. 普通教科「情報」における課題選択の観点</li> <li>4. 学習評価と授業改善</li> <li>5. 問題解決技法</li> <li>6. 情報化と社会 -情報社会-</li> <li>7. 情報化と社会 -著作権-</li> <li>8. 情報化と社会 -情報モラル指導の観点-</li> <li>9. 教材研究 -各種ツールの活用方法-</li> <li>10. 学習指導案の作成</li> <li>11. 情報化とプレゼンテーション</li> <li>12. 模擬授業 講義編Ⅰ（「社会と情報」に関する内容）</li> <li>13. 模擬授業 講義編Ⅱ（「情報と科学」に関する内容）</li> <li>14. 模擬授業 実習編Ⅰ（「社会と情報」に関する内容）</li> <li>15. 模擬授業 実習編Ⅱ（「情報と科学」に関する内容）</li> <li>16. 定期試験</li> </ol>			
<b>教科書</b>			
学習指導要領, ISBN:不明 プリント			
<b>参考書</b>			
情報科教育法／久野靖・辰己丈夫 [監修]:オーム社, ISBN:9784274079221			
<b>成績評価方法・基準</b>			
演習, レポート, 成果発表で総合的に判断する			
<b>再試験の有無</b>			
行わない			
<b>受講者へのメッセージ</b>			
なし			

JABEE合格	
学習教育目標との関連	
教免科目	
授業の使用言語	
WEB ページ	
<b>連絡先</b> (E メールアドレス, オフィスアワー)	(学生用連絡先) 中山慎一(総合科学部1号館2階 2S07 号室) (メールアドレス) shin@tokushima-u.ac.jp (オフィスアワー) 金曜日 17:00~18:00
<b>備考</b>	この科目は教員免許状の「教科に関する科目(情報)」の単位となります。

開講学期	2年・前期	時間割番号	6S10180
科目分野	教職取得に関する専門科目 [Special Education as to Teaching]		
選必区分	要件外		
科目名	工業科教育法 I [Methodology of Teaching Industrial Subjects I]		
ナンバリング			
担当教員	理工学部非常勤講師		
単位数	2	対象学生・年次	全コース
<b>授業の目的</b>			
高校職業教育のひとつである工業科教育に関して、後期中等教育の専門教育としての固有の性格・役割及び教育目的・内容等について教育学的見地からその特性を理解することを目標とする。具体的には、工業科教育の取り組み例や教育課程、教材・授業実践例を調査・考察し、教科経営に適応・応用でき能力を身につける。			
<b>授業の概要</b>			
高校における工業科教育に関して、ものづくり教育振興の取り組み、工業科の教育課程、教材開発・授業実践の方法について理解する。理解の促進を図るために、教員が指定した課題に対して個人またはグループでプレゼンテーションや討論を適宜行う。			
<b>キーワード</b>			
キャリア教育, 工業科教育, 教材研究開発			
<b>到達目標</b>			
1. 学校教育におけるものづくり教育の振興について説明できる。 2. 高校工業教育の教育課程について説明できる。 3. 教材開発・授業実践の方法について説明できる。			
<b>授業の計画</b>			
第1回: ガイダンス, 高校職業教育としての工業科教育 第2回: 高校における工業科教育の目的・意義 第3回: 学校教育におけるものづくり教育の振興(若者自立プランについて) 第4回: 学校教育におけるものづくり教育の振興(初等中等教育において講じた施策についてプレゼンテーション) 第5回: デュアルシステム・インターンシップ(概要, 目的) 第6回: デュアルシステム・インターンシップ(具体的な実施方策と課題) 第7回: デュアルシステム・インターンシップ(取り組み例の紹介と考察) 第8回: 各国の工業科教育との比較(ドイツ) 第9回: 各国の工業科教育との比較(フランス・アメリカ) 第10回: 高校工業教育の教育課程(各学科に共通に履修させる科目) 第11回: 高校工業教育の教育課程(各学科に共通的な基礎科目) 第12回: 高校工業教育の教育課程(各学科に選択的な基礎科目, 工業の各分野に関する科目) 第13回: 教材開発研究、授業実践(取り組み例についての講義) 第14回: 教材開発研究、授業実践(取り組み例について各自で調査・考察) 第15回: 教材開発研究、授業実践(取り組み例についてのプレゼンテーション)			
<b>教科書</b>			
高等学校学習指導要領／文部科学省, ISBN:不明 高等学校学習指導要領解説 工業編／文部科学省, ISBN:9784407320015			
<b>参考書</b>			
工業高校の挑戦 ―高校教育再生への道―／斎藤武雄他:学文社, 2005, ISBN:9784762014369 四訂版 工業技術教育法／土井正志智他:産業図書, 1990, ISBN:9784782835067 改訂版 専門高校の国際比較／伊藤一雄他:法律文化社, 2006, ISBN:9784589029201 その他, 必要な文献や資料を適宜配布する。			
<b>成績評価方法・基準</b>			
発表(60%), レポート(40%)の割合で評価する。 3分の2以上の出席がないと成績を評価しない。			

<b>再試験の有無</b>	
無し	
<b>受講者へのメッセージ</b>	
「成績評価方法・基準」にも記載しましたが、3分の2以上の出席がないと成績を評価しません。また遅刻を3回すると、欠席1回とみなしますので、注意してください。	
<b>JABEE合格</b>	
<b>学習教育目標との関連</b>	
<b>教免科目</b>	
<b>授業の使用言語</b>	
日本語	
<b>WEB ページ</b>	
<b>連絡先</b> (E メールアドレス, オフィスアワー)	
<b>備考</b>	

開講学期	2年・前期	時間割番号	6S10190
科目分野	教職取得に関する専門科目 [Special Education as to Teaching]		
選必区分	要件外		
科目名	工業科教育法Ⅱ [Methodology of Teaching Industrial Subjects II]		
ナンバリング			
担当教員	宮本 賢治 [MIYAMOTO KENJI]		
単位数	2	対象学生・年次	全コース
<b>授業の目的</b>			
本授業科目では、工業科教育に関する知識と技術を習得し、工業技術の諸問題を主体的・合理的に解決し、工業の発展を図る能力と実践的な態度を身に付ける。			
<b>授業の概要</b>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>工業科教育における目標と内容を理解し、説明する。</li> <li>知識・理解、実験・実習に関する指導内容や方法を分析し、説明する。</li> <li>工業科教育において教育内容や教材等、具体的な授業を構成し、模擬授業をする。</li> </ul> なお製作実習を含む場合があるので、適宜ものづくり等に相応しい服装で出席することが必要である。			
<b>キーワード</b>			
教材研究・製作、指導案、模擬授業			
<b>到達目標</b>			
<ol style="list-style-type: none"> <li>工業科教育における目標と内容を理解し、知識・理解、実験・実習に関する指導内容や方法の分析ができる。</li> <li>工業科教育において教育内容や教材等、具体的な授業を構成し、模擬授業をすることができる。</li> </ol>			
<b>授業の計画</b>			
第1回:オリエンテーション			
第2回:工業科教育の目標			
第3回:工業科教育のカリキュラム			
第4回:指導内容の分析			
第5回:教材研究(事前の調査・検討)			
第6回:教材製作(構想)			
第7回:教材製作(設計)			
第8回:教材製作(製作に必要なデータ取得のための実験)			
第9回:教材製作(製作・加工)			
第10回:教材製作(製作物の性能評価と修正)			
第11回:指導計画の作成			
第12回:指導案の作成			
第13回:模擬授業			
第14回:模擬授業の省察			
第15回:まとめ、レポート作成等			
<b>教科書</b>			
高等学校学習指導要領／文部科学省, ISBN:不明			
高等学校学習指導要領解説 工業編／文部科学省, ISBN:9784407320015			
<b>参考書</b>			
必要な文献や資料を適宜配布する。			
<b>成績評価方法・基準</b>			
"授業への取り組み状況(60%), 製作(20%), 模擬授業(20%)の割合で評価する。 3分の2以上の出席がないと成績を評価しない。"			
<b>再試験の有無</b>			
無し			

<p><b>受講者へのメッセージ</b></p> <p>「成績評価方法・基準」にも記載しましたが、3分の2以上の出席がないと成績を評価しません。また遅刻を3回すると、欠席1回とみなしますので、注意してください。</p>	
<p><b>JABEE合格</b></p>	
<p><b>学習教育目標との関連</b></p>	
<p><b>教免科目</b></p>	
<p><b>授業の使用言語</b></p> <p>日本語</p>	
<p><b>WEB ページ</b></p>	
<p><b>連絡先</b> (E メールアドレス, オフィスアワー)</p>	
<p><b>備考</b></p>	

開講学期	3年・前期	時間割番号	6S10200
科目分野	教職取得に関する専門科目 [Special Education as to Teaching]		
選必区分	要件外		
科目名	道徳教育 [Moral Education]		
ナンバリング			
担当教員	楠 茂宣 [Shigenori Kusunoki]		
単位数	2	対象学生・年次	全コース
<b>授業の目的</b>			
道徳教育の目標と内容についての理解を深め、すべての教育活動を通してなされる道徳教育を補充・進化・統合する道徳の時間の具体的な指導方法を身に付ける。			
<b>授業の概要</b>			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学習指導要領における道徳教育の目標・内容を理解する。</li> <li>2. 道徳教育の全体計画・年間指導計画・学級における指導計画の意義を理解する。</li> <li>3. 授業実践例を検討しながら、道徳の指導方法を理解し、習得する。</li> </ol>			
<b>キーワード</b>			
道徳教育,道徳教育の目標,道徳の時間の指導法			
<b>到達目標</b>			
道徳教育の目標と内容についての理解を深め、すべての教育活動を通してなされる道徳教育を補充・進化・統合する道徳の時間の具体的な指導方法を身に付ける。			
<b>授業の計画</b>			
第1回:道徳教育の目標 第2回:道徳教育の内容 第3回:学校における道徳教育 第4回:学級経営と道徳教育 第5回:家庭・地域社会における道徳教育 第6回:道徳教育と道徳の時間 第7回:道徳教育の諸計画 第8回:道徳の時間の指導方法 第9回:道徳の時間の自作資料 第10回:自作資料作成 第11回:授業実践例・資料分析(道徳の内容1・2) 第12回:授業実践例・資料分析(道徳の内容3・4) 第13回:学習指導案作成 第14回:道徳性を育てる体験活動 第15回:レポート 第16回:まとめ			
<b>教科書</b>			
中学校学習指導要領解説：道徳編／文部科学省 [著],: 日本文教出版, 2008, ISBN:9784536590044 小学校学習指導要領解説：道徳編／文部科学省 [著],: 東洋館出版社, 2008, ISBN:9784491023762			
<b>参考書</b>			
よりよく生きる力を育てる道徳読み物資料集／楠茂宣 著,: 東洋館出版社, 2008, ISBN:9784491023502 今日からはじめる道徳教育 : let's start!／楠茂宣 著,: 東洋館出版社, 2008, ISBN:9784491023649			
<b>成績評価方法・基準</b>			
授業への参加態度とレポートで評価する。			
<b>再試験の有無</b>			



受講者へのメッセージ	
JABEE合格	
学習教育目標との関連	
教免科目	
授業の使用言語	
WEB ページ	
連絡先 (E メールアドレス, オフィスアワー)	
備考	この授業は、中学校教諭免許状取得のための「教職に関する科目」に該当し、必修科目となっている。

開講学期	3年・前期	時間割番号	6S10210
科目分野	教職取得に関する専門科目 [Special Education as to Teaching]		
選必区分	要件外		
科目名	特別活動論 [Studies on Extra-Curricular Activities]		
ナンバリング			
担当教員	葛上 秀文 [Hidefumi Kuzukami]		
単位数	2	対象学生・年次	全コース
<b>授業の目的</b>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・特別活動の基本的性格及び意義について理解する。</li> <li>・実践事例をもとに、特別活動における教師の指導・支援のあり方について理解する。</li> </ul>			
<b>授業の概要</b>			
特別活動の目標、内容、指導方法についての講義、演習を行う。その過程では、自らの特別活動における学びを想起し、自らの学習経験を分析的にとらえ直して考えを伝え合い、特別活動の目標や内容、指導方法に関して意味付けを行うことができるようにする。また、特別活動の実践事例をもとに、特別活動における教師の指導・支援のあり方について具体的に考えることができるようにする。			
<b>キーワード</b>			
教職, 特別活動, 指導法			
<b>到達目標</b>			
特別活動の目標や内容、指導方法に関して意味付けを行うことができるようにする。また、特別活動の実践事例をもとに、特別活動における教師の指導・支援のあり方について具体的に考えることができるようにする。			
<b>授業の計画</b>			
第1回: 心に残る学校生活と特別活動			
第2回: 特別活動の目標と内容			
第3回: 教育改革の動向と特別活動の意義			
第4回: 人間形成と特別活動			
第5回: 学校づくりと特別活動			
第6回: 学級づくりと特別活動			
第7回: 学級活動・ホームルーム活動の教育的意義			
第8回: 児童会活動・生徒会活動の教育的意義			
第9回: クラブ活動の教育的意義, クラブ活動と部活動			
第10回: 学校行事の教育的意義			
第11回: 年間指導計画の作成			
第12回: 特別活動における教師の指導・支援のあり方			
第13回: 実践事例に見る特別活動における指導・支援(1) 学級や学校の生活づくり			
第14回: 実践事例に見る特別活動における指導・支援(2) 適応と成長及び健康安全			
第15回: 実践事例に見る特別活動における指導・支援(3) 学業と進路			
<b>教科書</b>			
中学校学習指導要領解説: 特別活動編 / 文部科学省 [著], :ぎょうせい, 2008, ISBN:9784324900031			
高等学校学習指導要領解説: 特別活動編 / 文部科学省 [著], :海文堂出版, 2009, ISBN:9784303126308			
<b>参考書</b>			
適宜, 関係資料の配付, 参考文献の紹介を行う。			
<b>成績評価方法・基準</b>			
授業への参加態度(15%), 毎時間の小レポート(25%), 最終レポート(60%)により, 総合的に評価する。			
<b>再試験の有無</b>			
<b>受講者へのメッセージ</b>			

<b>JABEE合格</b>	
<b>学習教育目標との関連</b>	
<b>教免科目</b> この授業は、中学校教諭、高等学校教諭(工業を除く)、養護教諭の各種免許状取得のための「教職に関する科目」に該当し、必修科目となっている。	
<b>授業の使用言語</b>	
<b>WEB ページ</b>	
<b>連絡先</b> (E メールアドレス、 オフィスアワー)	
<b>備考</b>	この授業は、中学校教諭、高等学校教諭(工業を除く)、養護教諭の各種免許状取得のための「教職に関する科目」に該当し、必修科目となっている。

開講学期	3年・前期	時間割番号	6S10220
科目分野	教職取得に関する専門科目 [Special Education as to Teaching]		
選必区分	要件外		
科目名	教育方法学 [Instructional Psychology]		
ナンバリング			
担当教員	坂田 大輔, 理工学部非常勤講師 [Daisuke Sakata]		
単位数	2	対象学生・年次	全コース
<b>授業の目的</b>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業構成要素である目標, 内容, 指導方法・学習方法, 指導組織・形態, 学習組織・形態, 学習環境・メディア, 学習評価等について, 具体的な事例に基づいて理解する。</li> <li>・授業の設計・実施・評価・改善のあり方について理解する。</li> <li>・授業の分析方法や協議の仕方について理解する。</li> </ul>			
<b>授業の概要</b>			
授業構成要素, 授業の設計・実施・評価・工夫改善の方法について講義・演習を行う。その過程では, 各自の意見を述べ合う場を設け, お互いの考えを深めることができるようにする。また, 模擬授業及びその授業記録の分析, 協議を通して, 体験的に学ぶことができるようにする。			
<b>キーワード</b>			
授業の概念, 授業構成要素, 授業設計・実施・評価・工夫改善			
<b>到達目標</b>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業構成要素である目標, 内容, 指導方法・学習方法, 指導組織・形態, 学習組織・形態, 学習環境・メディア, 学習評価等について, 具体的な事例に基づいて説明する。</li> <li>・授業の設計・実施・評価・改善のあり方について説明する。</li> <li>・授業の分析方法や協議の仕方について説明する。</li> </ul>			
<b>授業の計画</b>			
第1回: 教育方法学の概要(担当: 坂田)			
第2回: 過去に経験した授業の想起に基づく授業構成要素の分類整理(担当: 坂田)			
第3回: 授業の概念(担当: 坂田)			
第4回: 学校教育目標の変遷(担当: 泰山)			
第5回: 目標分析の視点(担当: 泰山)			
第6回: 課題分析の視点(担当: 泰山)			
第7回: 教育評価の視点(担当: 泰山)			
第8回: 授業方法(担当: 泰山)			
第9回: 授業の研究(担当: 泰山)			
第10回: カリキュラムと単元の構成(担当: 坂田)			
第11回: 多様な指導組織・形態及び学習組織・形態と学習方法の工夫(担当: 坂田)			
第12回: 学習環境の整備とメディアの活用(担当: 坂田)			
第13回: 授業設計及び授業分析, 授業研究(1) 授業設計, 模擬授業(担当: 坂田)			
第14回: 授業設計及び授業分析, 授業研究(2) 模擬授業, 授業分析(担当: 坂田)			
第15回: 授業設計及び授業分析, 授業研究(3) 模擬授業, 授業研究(担当: 坂田)			
第16回: 総括と最終レポート			
<b>教科書</b>			
中学校学習指導要領／文部科学省 [著], 東山書房, 2008, ISBN:9784827814613, 244 円			
高等学校学習指導要領／文部科学省 [著], 東山書房, 2009, ISBN:9784827814781, 588 円			
<b>参考書</b>			
<b>教科書・参考書に関する補足情報</b>			
適宜, 関係資料の配付, 参考文献の紹介を行う。			

<b>成績評価方法・基準</b>	
授業への参加態度(15%), 毎時間の小レポート(25%), 最終レポート(60%)により, 総合的に評価する。	
<b>再試験の有無</b>	
<b>受講者へのメッセージ</b>	
教育の方法について学ぶ過程で, 教員として必要な資質能力を身につけることもめざします。	
<b>JABEE合格</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・復習する際には, ノートに記録している授業の板書と, 配付した資料を照らし合わせながら, 再度資料を読み込むと理解が進みます。</li> <li>・予習する際には, 授業の最後に出てくる疑問や, 提示するキーワードについて調べてみましょう。</li> </ul>	
<b>学習教育目標との関連</b>	
<b>教免科目</b>	
<b>授業の使用言語</b>	
<b>WEB ページ</b>	
<b>連絡先</b> (E メールアドレス, オフィスアワー)	(学生用連絡先) 1 号館中棟 2 階 2M01 号室(教育方法論研究室) TEL 088-656-7203 (メールアドレス) sakata.daisuke@tokushima-u.ac.jp
<b>備考</b>	この授業は, 中学校教諭, 高等学校教諭(工業を除く), 養護教諭の各種免許状取得のための「教職に関する科目」に該当し, 必修科目となっている。

開講学期	3年・後期	時間割番号	6S10230
科目分野	教職取得に関する専門科目 [Special Education as to Teaching]		
選必区分	要件外		
科目名	生徒指導論(進路指導を含む) [Student Counseling]		
ナンバリング			
担当教員	中川 隆彦, 阿形 恒秀 [Takahiko Nakagawa, Tsunehide Agata]		
単位数	2	対象学生・年次	全コース
<b>授業の目的</b>			
現代社会において青少年を取り巻く環境は極めて深刻である。学校現場においても生徒指導に関する問題が山積している。日々、その問題と教職員は対峙している。子どもが安心安全にかつ充実した学校生活を送ることができるようにするための教師の在り方を学ぶ。			
<b>授業の概要</b>			
学校現場の生徒指導の実態や課題、問題点を新聞や参考資料を基に把握した上で、次のような内容で取り組む。①生徒指導・進路指導の基本的な理論や内容について講義を行う。②特別支援学校の参観を取り入れ、学校現場から直接学ぶ。③具体的な課題に対して、生徒指導・進路指導の知識や技法を用い、グループによる演習によって実践的に学ぶ。			
<b>キーワード</b>			
生徒指導, 生徒の実態, 生徒理解の方法, 事例研究, ロールプレイ, 進路指導			
<b>到達目標</b>			
①いじめや校内暴力, 生徒の進路等の実態を理解することができる。 ②生徒指導・進路指導の意義や技法等を学ぶことができる。 ③理想的な生徒指導・進路指導の在り方をえがくことができる。			
<b>授業の計画</b>			
第1回:オリエンテーション(担当:中川・阿形) 第2回:生徒指導と教育法規(担当:中川) 第3回:演習[アサーショントレーニング](担当:中川) 第4回:演習[構成的グループエンカウンター](担当:中川) 第5回:進路指導の実践例から学ぶ(担当:中川) 第6回:演習[学校における教育相談:進路指導](担当:中川) 第7回:生徒指導の実践例から学ぶ(担当:中川) 第8回:演習[学校における教育相談:生徒指導](担当:中川) 第9回:生徒指導と特別支援教育(担当:中川) 第10回:学校現場での観察(担当:中川) 第11回:学校現場における生徒の実態(担当:阿形) 第12回:生徒指導・進路指導の意義と役割(担当:阿形) 第13回:生徒指導・進路指導体制と生徒指導主事(担当:阿形) 第14回:生徒指導と教科指導(担当:阿形) 第15回:レポート(生徒指導の意義と重要性)(担当:中川) 第16回:まとめ(担当:中川)			
<b>教科書</b>			
必要に応じて授業時にレジュメ・資料を配付する。			
<b>参考書</b>			
生徒指導提要／文部科学省 [著]:教育図書, 2010, ISBN:9784877302740 月刊学校教育相談:ほんの森出版, ISBN:雑誌 月刊生徒指導:学事出版, ISBN:雑誌 生徒指導 10 の原理 100 の原則 : 気になる子にも指導が通る 110 のメソッド／堀裕嗣 著:学事出版, 2011, ISBN:9784761918484 中学校学習指導要領／文部科学省 [著]:東山書房, 2008, ISBN:9784827814613 高等学校学習指導要領／文部科学省[著]:東山書房 2009			

<b>成績評価方法・基準</b>	
各授業の課題・参加態度, 最終レポート等により総合評価する。	
<b>再試験の有無</b>	
なし。	
<b>受講者へのメッセージ</b>	
各人の意見を述べ合う場を授業中に設ける。課題意識をもって授業に参加すること。	
<b>JABEE合格</b>	
新聞記事等で, 学校現場における生徒指導に関するニュースに目を向けること。	
<b>学習教育目標との関連</b>	
<b>教免科目</b>	
<b>授業の使用言語</b>	
<b>WEB ページ</b>	
<b>連絡先</b> (E メールアドレス, オフィスアワー)	(学生用連絡先) 総合科学部 1 号館中棟 2 階 2M02 室 088-656-7190 (メールアドレス) 中川 隆彦:nakagawa.takahiko@tokushima-u.ac.jp (オフィスアワー) 中川 隆彦:毎週水曜日 PM.1:00-PM.4:00 総合科学部 1 号館2階 2M02 号室
<b>備考</b>	この授業は, 中学校教諭, 高等学校教諭(工業を除く)の各種免許状取得のための「教職に関する科目」に該当し, 必修科目となっている。

開講学期	3年・後期	時間割番号	6S10240
科目分野	教職取得に関する専門科目 [Special Education as to Teaching]		
選必区分	要件外		
科目名	教育相談 [Educational Counseling]		
ナンバリング			
担当教員	福森 崇貴 [Takaki Fukumori]		
単位数	2	対象学生・年次	全コース
<b>授業の目的</b>			
学校現場では日々、様々な問題が起こっている。このような背景のもと、生徒たちの発達の状況に即しつつ、「その子らしさ」と一体どのように付き合っていけばよいのだろうか。そのような問いについて教育相談という観点から考えると共に、現場の実際や問題への対応について理解することを目的とする。			
<b>授業の概要</b>			
教育相談に関する基礎理論及び学校現場の実際について、実例も踏まえた上で学ぶ。その際、生徒への個人対応のみならず、校内体制の整備や組織的取り組み、また保護者や地域専門機関との連携についても取り上げる。			
<b>キーワード</b>			
教育相談、カウンセリング、不登校、いじめ、保護者への対応			
<b>到達目標</b>			
教育相談の意義と必要性について考え、その上で、一人一人の生徒に効果的に関与できる力を身につけることを目標とする。			
<b>授業の計画</b>			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 ガイダンス —教育相談とカウンセリングマインド—</li> <li>2 カウンセリングの基本的理論</li> <li>3 傾聴の実際(1)傾聴とは</li> <li>4 傾聴の実際(2)傾聴の枠組み</li> <li>5 傾聴の実際(3)傾聴の質を向上させるために</li> <li>6 話の促し(1)質問・コメント・強調・相づち</li> <li>7 話の促し(2)問題状況の整理</li> <li>8 話を聴く際の姿勢・態度</li> <li>9 相談場面の実際(1)相談場面のビデオ視聴</li> <li>10 相談場面の実際(2)相談場面の疑問点に答える</li> <li>11 生徒理解に向けて</li> <li>12 問題行動とその対応(1)不登校</li> <li>13 問題行動とその対応(2)いじめ</li> <li>14 保護者との関わり</li> <li>15 期末試験</li> <li>16 総括</li> </ol>			
<b>教科書</b>			
<b>参考書</b>			
生徒指導提要／文部科学省:教育図書, 2011, ISBN:4877302743			
<b>教科書・参考書に関する補足情報</b>			
教科書は特に指定せず、必要に応じて資料を配布する。不登校やいじめに関しては、文部科学省のホームページにて、関連する施策等も各自で確認しておくこと。			
<b>成績評価方法・基準</b>			
期末試験(60%)、授業への取り組み(40%)を元に総合的に評価する。			
<b>再試験の有無</b>			
無し			



<b>受講者へのメッセージ</b>	
上記のように、本授業における成績評価の40%は授業への取り組みによってなされます。従って、単に出席するだけでなく、授業中に行われるペアワークやグループワークに積極的に参加し、意見を発信することが受講生には求められます。	
<b>JABEE合格</b>	
各回のまとめとして、授業に対する感想・意見の記入を求める。復習として、授業中に配布した資料に再度目を通しておくこと。	
<b>学習教育目標との関連</b>	
<b>教免科目</b>	
<b>授業の使用言語</b>	
<b>WEB ページ</b>	
<b>連絡先</b> (E メールアドレス、 オフィスアワー)	(学生用連絡先) 3S08 (メールアドレス) t.fukumori@tokushima-u.ac.jp
<b>備考</b>	この授業は、教員免許状取得のための「教職に関する科目(生徒指導, 教育相談及び進路指導等に関する科目)」(必修科目)に該当する。

開講学期	4年・通年	時間割番号	6S10250
科目分野	教職取得に関する専門科目 [Special Education as to Teaching]		
選必区分	要件外		
科目名	教育実習事前事後指導 [Guidance Before and After Teaching Practicum]		
ナンバリング			
担当教員	坂田 大輔 [Daisuke Sakata]		
単位数	1	対象学生・年次	全コース
<b>授業の目的</b>			
(事前指導)			
・教育実習生に必要な資質能力について理解し、教育実習に向けて明確な目標をもつ。			
(事後指導)			
・教育実習について省察し、成果と課題を明らかにして、今後に向けての展望をもつ。			
<b>授業の概要</b>			
教育実習は、大学での教職科目及び専門科目等で身に付けた教育に対する知見を、実際の教育現場で実証する意義ある機会である。事前指導では、授業実践のみならず生徒への影響の重大さを認識できるようにするとともに、教育実習に対する基本的な心構えや教育実習の内容・方法を具体的に理解できるようにする。事後指導では、教育実習について省察したことについて話し合い、自らの成果と課題を明らかにして、今後に向けての展望がもてるようにする。			
<b>キーワード</b>			
(事前指導)			
教育実習の心構え、教育実習の内容・方法、学習指導案			
(事後指導)			
教育実習前後の変容、今後の展望			
<b>到達目標</b>			
(事前指導)			
・教育実習生に必要な資質能力について説明し、教育実習に向けての目標を明記する。			
(事後指導)			
・教育実習について教師として必要な資質能力、学習指導、生徒指導の観点から省察し、成果と課題を明記する。			
<b>授業の計画</b>			
(事前指導)			
第1回 教育実習の心構え			
第2回 教育実習の内容・方法			
第3回 望ましい授業の姿(発問・板書・指導案)			
第4回 学習指導案作成			
(事後指導)			
第5回 教育実習前後の変容について省察、意見交換			
第6回 学習指導についての省察、意見交換			
第7回 生徒指導についての省察、意見交換			
第8回 事後指導の省察、及び今後に向けての展望			
<b>教科書</b>			
教育実習録(事前指導時に配布)			
<b>参考書</b>			
自分が免許取得を希望する教科の学習指導要領解説			
<b>成績評価方法・基準</b>			
実習ノート(20%)、意見交換への参加態度(20%)、最終レポート(60%)により、総合的に評価する。			
<b>再試験の有無</b>			

<p><b>受講者へのメッセージ</b></p> <p>事前指導時に配布する『教育実習録』を熟読し、事前指導で学んだことを十分に踏まえて教育実習に臨むこと。          教育実習中は、『実習ノート』に記録を残し、日々の省察、課題克服への努力を忘れないこと。          教育実習後は、成果と課題を明らかにし、事後指導に臨むこと。</p>	
<p><b>JABEE合格</b></p>	
<p><b>学習教育目標との関連</b></p>	
<p><b>教免科目</b></p> <p>この授業は、各種教員免許状取得のための「教職に関する科目」に該当し、必修科目となっている。</p>	
<p><b>授業の使用言語</b></p>	
<p><b>WEB ページ</b></p>	
<p><b>連絡先</b> (E メールアドレス、 オフィスアワー)</p>	<p>(学生用連絡先)          1 号館中棟 2 階 2M01 号室(教育方法論研究室) TEL. 088-656-7203          (メールアドレス)          sakata.daisuke@tokushima-u.ac.jp</p>
<p><b>備考</b></p>	<p>この授業は、各種教員免許状取得のための「教職に関する科目」に該当し、必修科目となっている。          この授業を受講し、教育実習事前指導を受けなければ、「教育実習」を受講できない。</p>

開講学期	4年・通年	時間割番号	6S10280
科目分野	教職取得に関する専門科目 [Special Education as to Teaching]		
選必区分	要件外		
科目名	教職実践演習(中・高) [Practical Teaching]		
ナンバリング			
担当教員	坂田 大輔, 中川 隆彦, 谷木 由利, 白石 謙二 [Daisuke Sakata, Takahiko Nakagawa, Yuri Taniki, Kenji Shiraishi]		
単位数	2	対象学生・年次	全コース
<b>授業の目的</b>			
<p>大学での教育課程で学んだ理論と実践の統一を図り,実践的指導力を定着させる。          そのために,次の到着目標を設定する。</p> <p>①不登校・いじめ・校内暴力等への実践的な対応ができる。          ②学級経営の在り方や実務能力を高める。          ③教育実習で身につけた授業力の補充・深化・統合を図ることができる。</p>			
<b>授業の概要</b>			
<p>現在の学校現場を取り巻く状況から,学習指導・生徒指導・学級経営等の実務能力が主体的に身につくよう小グループでの授業を行う。また,ロールプレイングや模擬授業等を積極的に取り入れ,より実践的な授業を展開する。また,授業内容の定着が図れるよう自己省察と教員の評価を授業ごとに行う。</p>			
<b>キーワード</b>			
実践的指導力、不登校・いじめ・校内暴力等への実践的な対応、級経営の在り方や実務能力、授業力の補充・深化・統合			
<b>到達目標</b>			
<p>1. ①不登校・いじめ・校内暴力等への実践的な対応ができる。          2. ②学級経営の在り方や実務能力を高める。          3. ③教育実習で身につけた授業力の補充・深化・統合を図ることができる。</p>			
<b>授業の計画</b>			
<p>1. 「教職キャリアノート」を用いての振り返り及び課題把握:全体指導          2. 個人面接・グループ討議          3. 特別支援教育に関する講話:全体指導          4. 特別支援教育に関する事例研究:中・高班別活動          5. 課題別校外活動(学習指導、人権教育、特別支援教育)          6. 課題別校外活動の省察:課題班別活動、学習指導についてのミニ講話:全体指導          7. 授業づくり:中・高各教科別活動          8. 模擬授業、グループ討議:中・高各教科別活動          9. 模擬授業、グループ討議:中・高各教科別活動、学習指導についてのミニ講話:全体指導          10. 学級経営の実務についてミニ講話:全体指導          学級経営案作成、諸帳簿の作成、教室環境の充実等の演習:中・高校班別活動          11. 学級経営案作成、諸帳簿の作成、教室環境の充実等の演習          個人懇談、保護者会の持ち方等のロールプレイング、グループ討議:中・高校班別活動          12. 生徒指導についてのミニ講話:全体指導          子どものほめ方・しかり方、不登校・いじめの問題・暴力への対応          保護者対応等についてのロールプレイング:中・高校班別活動          13. 子どものほめ方・しかり方、不登校・いじめの問題・暴力への対応          保護者対応等についてのロールプレイング:中・高校班別活動          14. 「教職実践演習」における成果と課題についての班別活動:中・高校班別活動          15. 個人面接、自己課題に関する個人省察          16. まとめ:全体指導</p>			
<b>教科書</b>			
必要に応じて授業時にレジュメ・資料を配付する。			

<b>参考書</b>	
適宜, 参考図書資料を紹介する。	
<b>教科書・参考書に関する補足情報</b>	
適宜, 参考図書資料を紹介する。	
<b>成績評価方法・基準</b>	
グループを担当する教員が毎回評価カードを用いて教師としての実践的指導力が身についたかどうかを評価する。また、毎回の各自の省察カードや作成する指導案及びキャリアノートの記載内容も評価の対象とする。	
<b>再試験の有無</b>	
なし。	
<b>受講者へのメッセージ</b>	
各人の意見を述べ合う場を授業中に設ける。課題意識をもって授業に参加すること。	
<b>JABEE合格</b>	
<b>学習教育目標との関連</b>	
<b>教免科目</b>	
この授業は、中学校及び高等学校(工業を除く)の教員免許状を取得するための「教職に関する科目」に該当し、必修科目となっている。	
<b>授業の使用言語</b>	
<b>WEB ページ</b>	
<b>連絡先</b> (E メールアドレス, オフィスアワー)	(学生用連絡先) 総合科学部 1 号館中棟 2 階 2M02 室、088-656-7190
<b>備考</b>	この授業は、中学校及び高等学校(工業を除く)の教員免許状を取得するための「教職に関する科目」に該当し、必修科目となっている。 『履修の手引き』の「履修上の注意」を熟読し、履修までに、記載されている履修要件等を満たしておくこと。